

第8期中頓別町総合計画

町民幸福度
アンケート調査

結果報告

2023 (R5) 年度

中頓別町

Nakatombetsu Town

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 調査実施期間.....	1
4. 回収状況.....	1
II 町民幸福度アンケート集計結果	2
1. ご自身のことについて（基本属性）	2
2. 就労状況について.....	4
3. 日常生活について.....	7
4. 健康状態について.....	11
5. 幸福度について.....	15
III パネル調査分析について	19
1. 就労状況の変化について（パネルデータ分析）	20
2. 外出の頻度の変化について（パネルデータ分析）	24
3. 健康状態の変化について（パネルデータ分析）	25
4. ストレスの状態の変化について（パネルデータ分析）	28
5. 幸福度の変化について（パネルデータ分析）	31
IV まとめ	36
1. 調査結果のまとめ.....	36
2. 今後の調査設計について.....	39
■ 資料 調査票	40

1. 調査の目的

本「町民幸福度アンケート調査」は、中頓別町総合計画の達成度や町民の幸福度を時系列に測るため、「パネル調査※」形式を導入し計画策定の基礎資料とすることを目的とした。

※ パネル調査とは、同じ回答者が複数年度に渡り、同じ設問に回答し、その変化を追跡して分析調査を行うもの

2. 調査方法

2020（R2）年に、住民基本台帳に登録のある15歳以上の全町民に対し郵送配布、本パネル調査の協力にご同意いただける方のみ記述を依頼。役場職員により訪問回収した。

2023（R5）年は、2020（R2）年の本「町民幸福度アンケート調査」において氏名と住所の記入があった520名の町民のうち、現在中頓別町に住んでいる467名に対し郵送配付、①役場職員による訪問、②郵送にて回収した。

3. 調査実施期間

2023（R5）年9月25日（9月22日発送、9月25日手渡し）～10月23日

※11月16日回収分までを集計した

4. 回収状況

本調査の回収状況は、以下のとおりである。回収されたもののうち、氏名と住所の記入がないもの等については、次回以降のパネル調査として活用が困難であることから、無効票として処理した。有効回収数は、（回収数-無記名）。

	対象数	調査票未着数	回収数	回収率※	無記名	有効回収数	有効回収率※
中頓別町民	467	19	208	46.4%	28	180	40.2%

※回収率=回収数 / (対象数-調査票未着数) ※有効回収率=有効回収数 / (対象者数-調査票未着数)

II 町民幸福度アンケート集計結果

1. ご自身のことについて（基本属性）

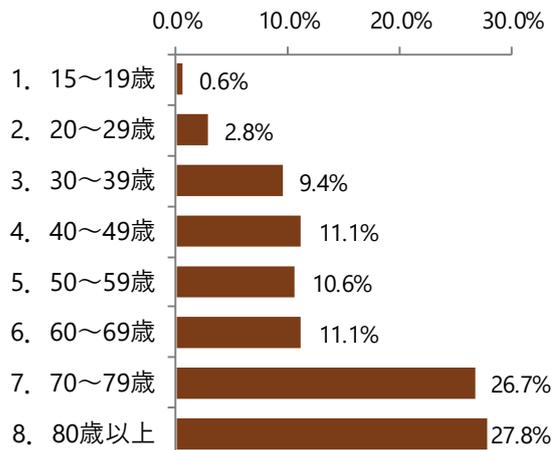
（1）年齢（※）

回答者の年齢割合は、「8. 80歳以上」が27.8%と最も高く、次いで、「7. 70～79歳」が26.7%、「6. 60～69歳」が11.1%であった。

2023（R5）年1月1日現在の町の人口と比較すると、「30～39歳」は同程度の割合、「70～79歳」、「80歳以上」は人口割合よりも回答者の割合が高く、その他の年齢階級では回答者の割合は低い。

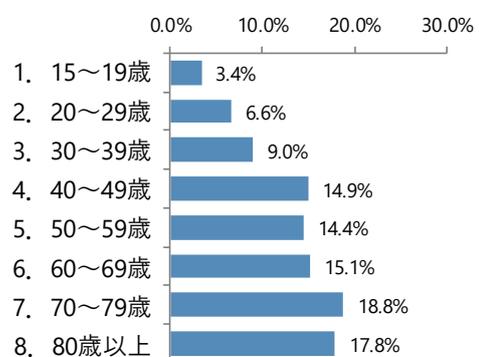
■図表 II - 1 - 1 年齢（n=180）

	件数	%
1. 15～19歳	1	0.6%
2. 20～29歳	5	2.8%
3. 30～39歳	17	9.4%
4. 40～49歳	20	11.1%
5. 50～59歳	19	10.6%
6. 60～69歳	20	11.1%
7. 70～79歳	48	26.7%
8. 80歳以上	50	27.8%
合計	180	100.0%



【参考】令和5年住民基本台帳年齢階級別人口（令和5年1月1日現在）

	件数	%
1. 15～19歳	48	3.4%
2. 20～29歳	94	6.6%
3. 30～39歳	128	9.0%
4. 40～49歳	212	14.9%
5. 50～59歳	205	14.4%
6. 60～69歳	215	15.1%
7. 70～79歳	267	18.8%
8. 80歳以上	254	17.8%
合計	1,423	100.0%

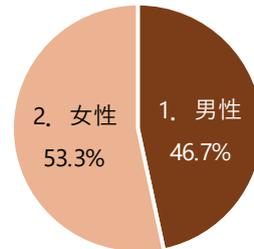


(2) 性別 (※)

回答者の性別の割合は、「男性」が46.7%、「女性」が53.3%となっている。2023（R5）年1月1日現在の町の人口における性別の割合は、「男性」が49.9%、「女性」が50.1%となっており、男性に比べて女性の方が回答した割合が高い。

■図表Ⅱ-1-2 性別（n=180）

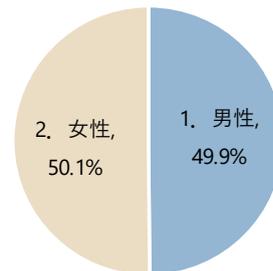
	件数	%
1. 男性	84	46.7%
2. 女性	96	53.3%
合計	180	100.0%



(※) アンケート設問としては、年齢・性別に関する設問は設定していないが、記載された氏名及び役場への確認を踏まえて、集計を行った。

【参考】令和5年住民基本台帳人口（令和5年1月1日現在）

	件数	%
1. 男性	783	49.9%
2. 女性	787	50.1%
合計	1,570	100.0%



2. 就労状況について

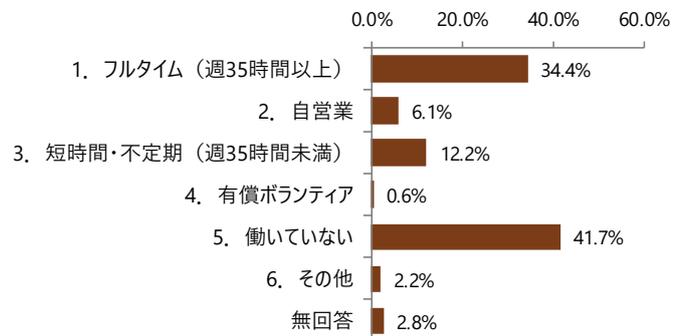
(1) 現在の就労状況

現在の就労状況は、「5. 働いていない」が41.7%と最も高く、次いで「1. フルタイム（週35時間以上）」が34.4%、「3. 短時間・不定期（週35時間未満）」が12.2%となっている。

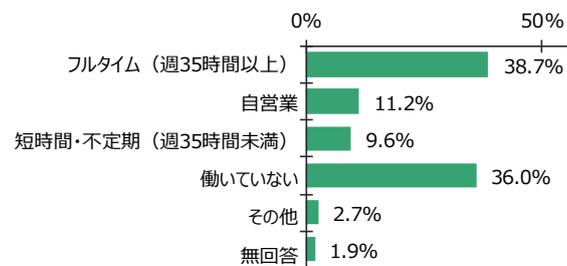
前回、2020（R2）年度に実施した同調査（※以下、R2調査）と比べると、「5. 働いていない」や「3. 短時間・不定期（週35時間未満）」の割合がやや上昇しており、高齢化等の影響が考えられる。

■図表 II -2-1 現在の就労状況（n=180）

	件数	%
1. フルタイム（週35時間以上）	62	34.4%
2. 自営業	11	6.1%
3. 短時間・不定期（週35時間未満）	22	12.2%
4. 有償ボランティア	1	0.6%
5. 働いていない	75	41.7%
6. その他	4	2.2%
無回答	5	2.8%
合計	180	100.0%



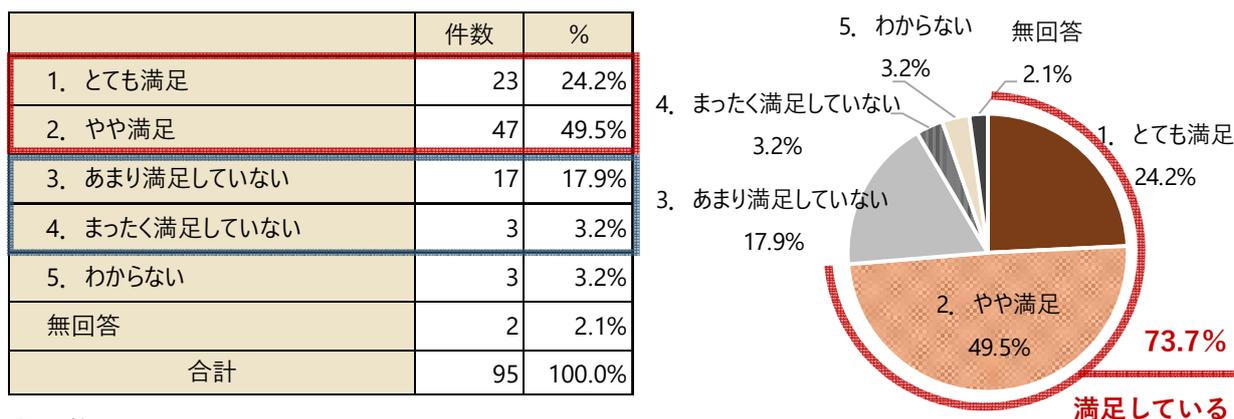
【参考】R2 調査結果 n = 520



(2) 就労状況の満足度

就労状況の満足度は、「2. やや満足」が49.5%と最も高く、次いで「1. とても満足」が24.2%、「とても満足」と「やや満足」を合わせた「満足している」割合は7割以上となっている。「3. あまり満足していない」と「4. まったく満足していない」を合わせた「満足していない」割合は21.1%であった。

■図表 II -2-2 就労の満足度 (n=95)



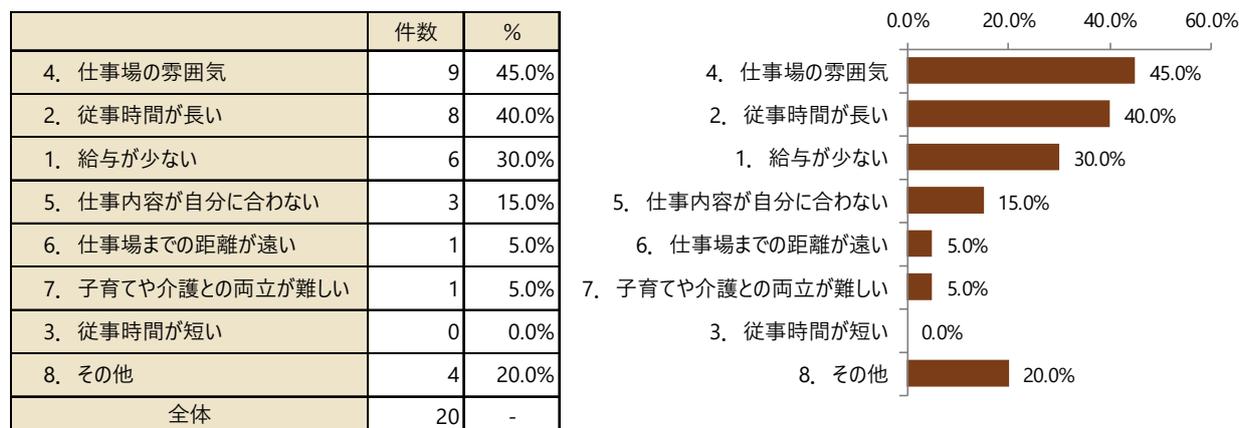
その他：

①日本習字教室（月2回）、②グループホーム夜間支援員、③無償ボランティア

(3) 就労状況に満足していない理由

(2) 就労状況の満足度で「あまり満足していない」、「まったく満足していない」と回答した20名に就労状況に満足していない理由を聞いたところ、「4. 仕事場の雰囲気」の割合が45.0%と最も高く、次いで「2. 従事時間が長い」(40.0%)、「1. 給与が少ない」(30.0%)であった。

■図表 II -2-3 就労状況に満足していない理由 (n=20) (複数回答)



その他の回答

A positive working environment where everyone understands their responsibilities and focuses on their own tasks and assignments. (誰もが自分の責任を理解し、自分の仕事や任務に集中できる前向きな職場環境。)

仕事量が少ない

自分のしたい業務ではない

環境を変えたい

(4) 雇用環境について町に求めること

「雇用環境について町に求めること」を聞いたところ、下記の記述があった。

■図表 II-2-4 雇用環境について町に求めること（自由記述）

パートや時短勤務であっても、経歴によって時給に反映出来るようになると良いと思います（今は反映されており、やりがいを感じる為）。

せめていくつかの選択ができる職種（事業）があってほしい。

高齢になっても働ける場が有れば良いです。

シルバー人材センターの設置を希望します。

生活必需品を供給する施設（＝雇用増）の樹立。

どのような労働状況であっても偏見を言わない、広めない（感じるのは仕方ないが）。

仕事量の確保。

自営業を閉店し、老人2名の生活が国民年金だけとなり、不安です。持ち家の後始末が心配です。

中頓別の街中に「シェアハウスのスペース」又は都会にある「カプセルスペース」的な利用可能な所があると行動範囲が広くなりうれしいです。

仕事場まで車両を必要としないが、通勤手当の増額によりガソリン高騰による補助や灯油代の冬期間だけ補助して頂きたい。

商店がなくなった事、美容室がない事。

雇用をうむこと、維持していくことも今求められていますが、そんな環境にないことが（若者が起業することを後押しする制度が整っていないので）残念です。他所から誘致しても地域に馴染まないものはすぐ撤退してしまいます。中堅の若者の奮起を期待していますし、経営者はもっと人材を育ててほしいです。

・町の中の環境整備、特に町民センター向かい教員住宅にある牧草畑。

・神埼牧場入口の三面鏡の位置が高い。もう少し低く看板を付けないとわからない。

人員を確保し多くなった業務に見合った働き方。

人口減少。

パワハラによる抑圧が無い環境を求める。

買い物できる店をふやしてほしい。

継続的な雇用（世代の平準化ができればいいと感じる）。

やはりこの町に住んで良かった、住み続けたいと思う、魅力あふれる町づくりをしてほしいです。

各職場に、時には指導をお願いしたいです。

国保病院の対応、特に電話の対応が悪い。必ず改善してください。

子どもの看護休暇の範囲を広げてもらえたらうれしい。小さい子の方が多いのはわかるが、小学生、中学生であっても体調を崩した時1人で家にいる、とはならないので。

無償ボランティアへの支援。

町内での雇用を増やしてほしい。常識の範囲で仕事がしたい。

○お祭りの日は休みにしてほしい（ex：神社祭）。

○もっと男性の働き方が自由になったら嬉しい（ex:リモートワークの選択、時短で退社など）。

地元の働き手がいらない。

年間で働けるので。

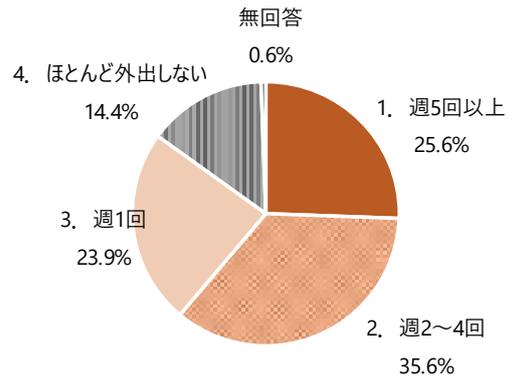
3. 日常生活について

(1) 外出頻度

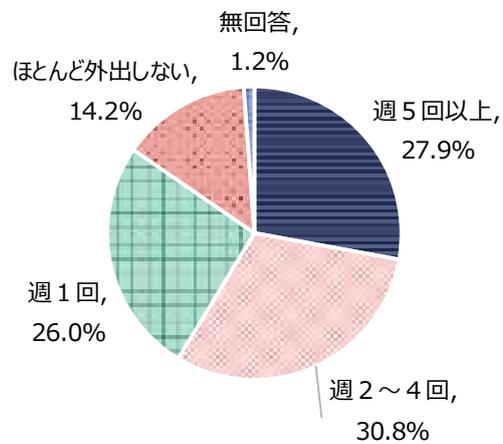
外出の頻度は、「2. 週2～4回」の割合が35.6%と最も高く、次いで「1. 週5回以上」が25.6%、「3. 週1回」が23.9%であった。R2調査と比較して大きな変化はみられない。

■図表 II-3-1 外出頻度 (n=180)

	件数	%
1. 週5回以上	46	25.6%
2. 週2～4回	64	35.6%
3. 週1回	43	23.9%
4. ほとんど外出しない	26	14.4%
無回答	1	0.6%
合計	180	100.0%



【参考】R2 調査結果 n = 520

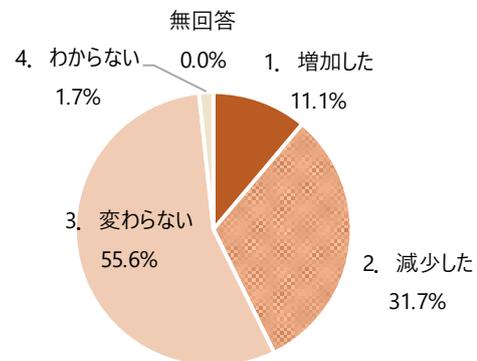


(2) 外出頻度の増減

3年前と比較した外出の頻度について、「3. 変わらない」の割合が55.6%と最も高く、次いで、「2. 減少した」が31.7%、「1. 増加した」は11.1%であった。

■図表 II-3-2 外出頻度の増減 (n=180)

	件数	%
1. 増加した	20	11.1%
2. 減少した	57	31.7%
3. 変わらない	100	55.6%
4. わからない	3	1.7%
無回答	0	0.0%
合計	180	100.0%



(3) 外出頻度が増えた理由

3年前から比較して外出頻度が増えた理由は、「1. 外出制限の解除」の割合が60.0%と最も高く、次いで「2. 感染症への不安が軽減」が35.0%と新型コロナウイルス感染症の影響が大きく占めている。

上記以外では、「4. 仕事/学校に通い始めた」と「9. 時間のゆとりが増えた」が20.0%、「5. 地域活動や趣味を始めた」が10.0%であった。新型コロナウイルス感染症による外出制限が解除された影響で、仕事/学校に通い始めたり、地域活動や趣味を始めた可能性がある。

■図表 II-3-3 外出頻度が増えた理由 (n=20) (複数回答 | 最大3つまで選択)

	件数	%
1. 外出制限の解除	12	60.0%
2. 感染症への不安が軽減	7	35.0%
4. 仕事/学校に通い始めた	4	20.0%
9. 時間的なゆとりが増えた	4	20.0%
5. 地域活動や趣味を始めた	3	15.0%
6. 友だち・仲間が増えた	2	10.0%
3. 仕事/学校が対面に戻った	1	5.0%
10. 経済的なゆとりが増えた	1	5.0%
7. 交通手段が確保できた	0	0.0%
8. 付き添い等が確保できた	0	0.0%
11. 健康状態がよくなった	0	0.0%
12. その他	4	20.0%
全体	20	-



その他

①買い物、②地域行事・催事の増加、③孫に会うため、④子どもの習い事で町外へ行かないといけなから

(4) 外出頻度が減った理由

3年前から比較して外出頻度が減った理由は、「1. 外出する気分にならなくなった」と「11. 健康状況がよくない」の割合がともに31.6%と最も高く、次いで、「2. 感染症への不安」と「10. 経済的なゆとりが減った」がともに28.1%であった。

■図表 II-3-4 外出頻度が減った理由 (n=57) (複数回答 | 最大3つまで選択)

	件数	%
1. 外出する気分にならなくなった	18	31.6%
11. 健康状況がよくない	18	31.6%
2. 感染症への不安	16	28.1%
10. 経済的なゆとりが減った	16	28.1%
7. 交通手段が確保できない	9	15.8%
9. 時間的なゆとりが減った	8	14.0%
4. 仕事/学校をやめた	6	10.5%
5. 地域活動や趣味をやめた	5	8.8%
6. 友だち・仲間が減った	4	7.0%
3. 仕事/学校がオンラインになった	1	1.8%
8. 付き添い等が確保できない	1	1.8%
12. その他	4	7.0%
全体	57	-



その他

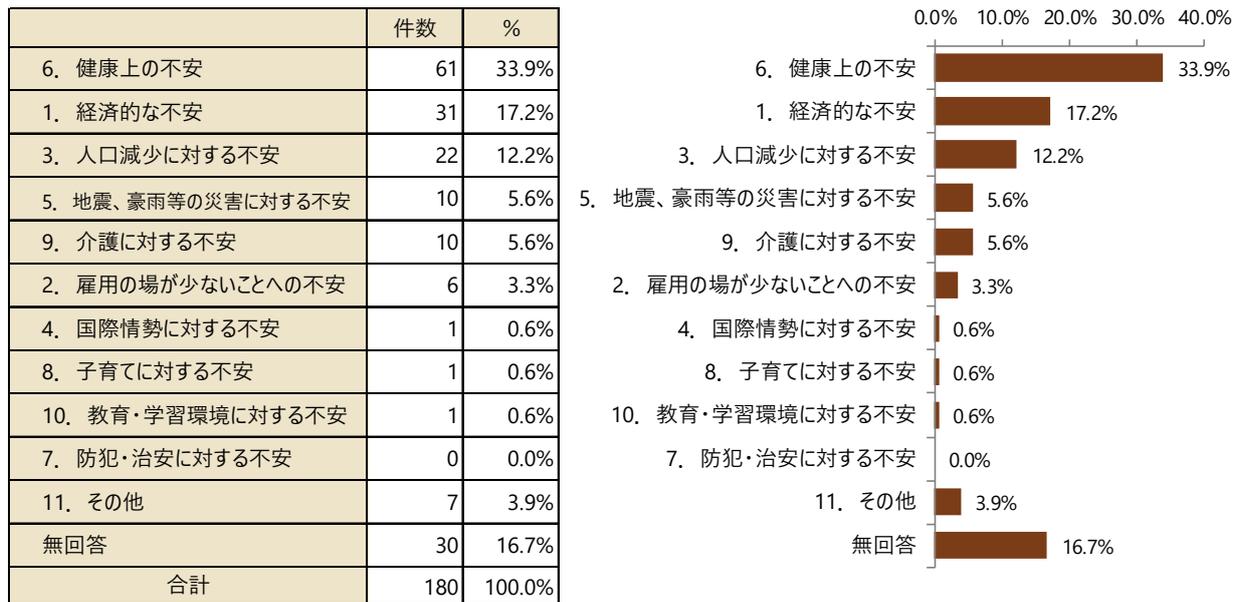
①行っていた店がなくなった、②施設入所したため (2件)、③自動車免許証返納により出ていくのに足がない

(5) 暮らしの不安

日常の暮らしの中で不安を感じることがあるかを単数回答でたずねたところ、「6. 健康上の不安」の割合が33.9%と最も高く、次いで「1. 経済的な不安」が17.2%、「3. 人口減少に対する不安」が12.2%となっている。

R2 調査と比較すると、「6. 健康上の不安」が増加しているほか、「1. 経済的な不安」が増加し2番目となっている。「3. 人口減少に対する不安」や「9. 介護に対する不安」は減少している。

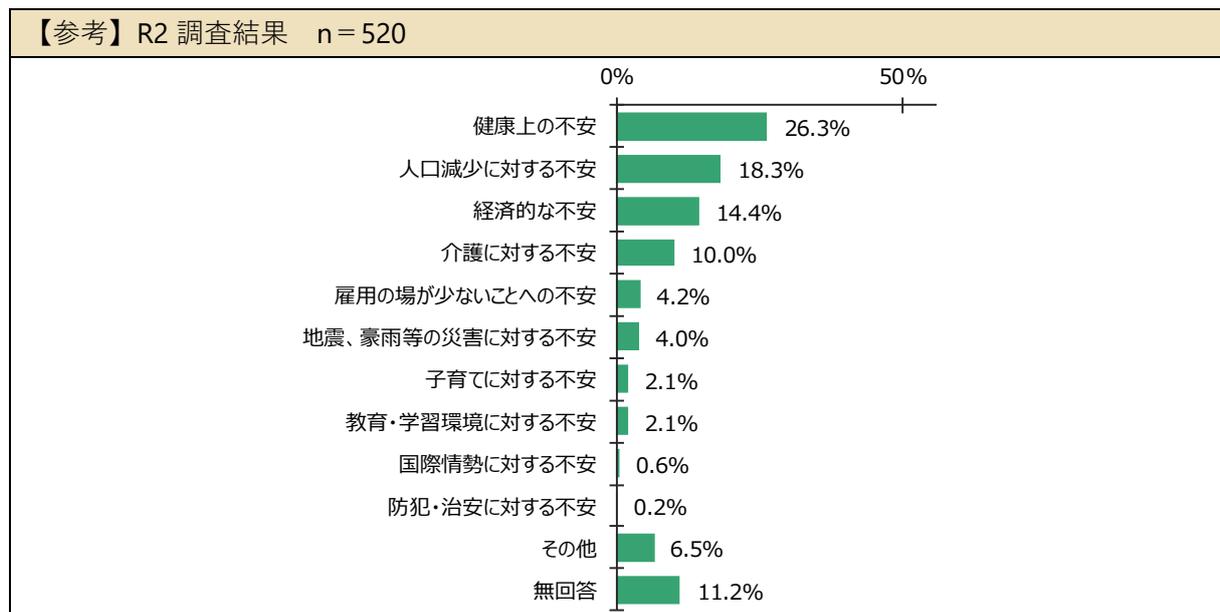
■図表 II-3-5 暮らしの不安 (n=180) ※単数回答



その他

①漠然とした不安、②人手不足による労働環境への不安、③冬期間の除雪

【参考】R2 調査結果 n = 520



4. 健康状態について

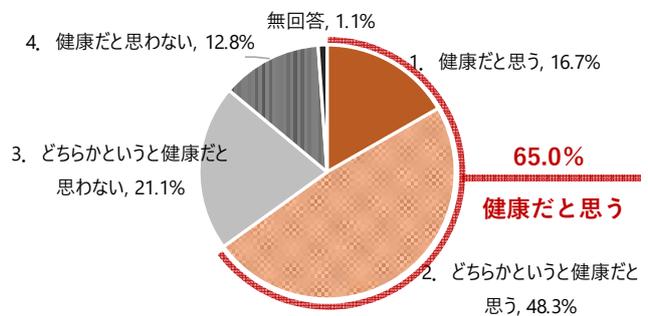
(1) 健康状態について

健康状態については、「2. どちらかという健康だと思う」の割合が48.3%と最も高く、次いで「3. どちらかという健康だと思わない」が21.1%であった。「1. 健康だと思う」と「2. どちらかという健康だと思う」を合わせた割合は6割以上となっており、比較的良好な健康状態であると感じている。

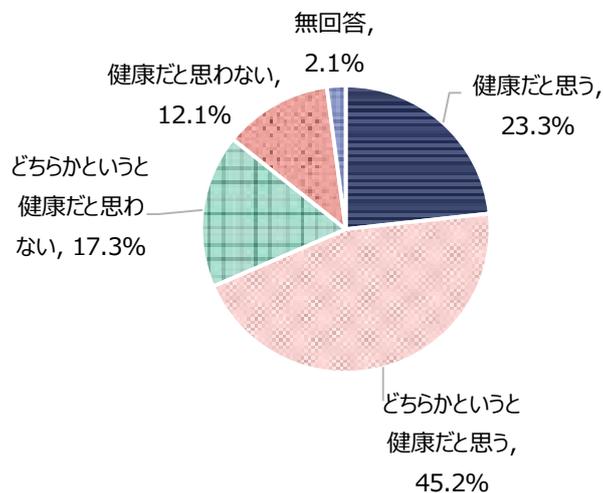
R2 調査と比較すると、「1. 健康だと思う人」の割合は、6.6ポイント減少している。

■図表 II-4-1 健康状態について (n=180)

	件数	%
1. 健康だと思う	30	16.7%
2. どちらかという健康だと思う	87	48.3%
3. どちらかという健康だと思わない	38	21.1%
4. 健康だと思わない	23	12.8%
無回答	2	1.1%
合計	180	100.0%



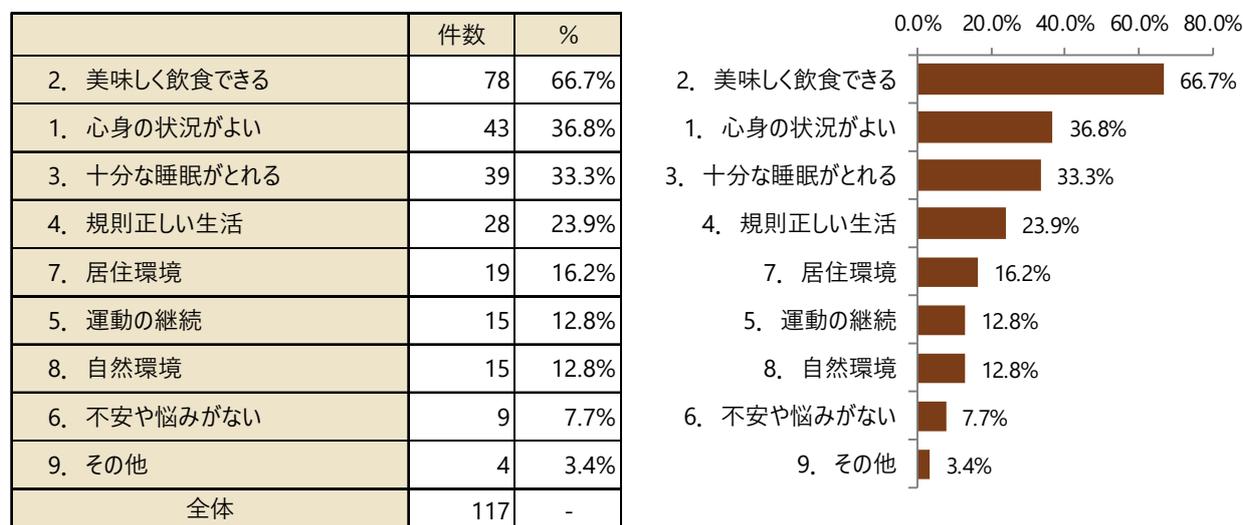
【参考】R2 調査結果 n = 520



(2) 健康だと思う理由

健康だと思う理由は、「2. 美味しく飲食できる」の割合が66.7%と最も高く、次いで、「1. 心身の状況がよい」が36.8%、「3. 十分な睡眠がとれる」が33.3%であった。

■図表 II-4-2 健康だと思う理由 (n=117) (複数回答 | 最大3つまで選択)



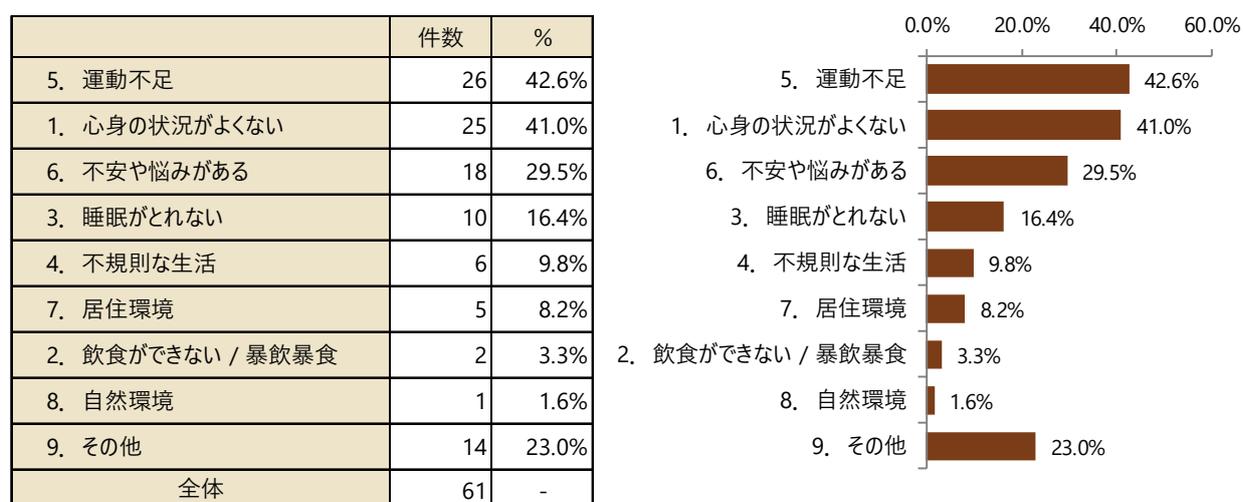
その他

①病気をしていない (2件)、②なるようにしかならない、③とりあえず日常生活を送れている

(3) 健康ではないと思う理由

健康ではないと思う理由は、「5. 運動不足」の割合が42.6%と最も高く、次いで、「1. 心身の状況がよくない」が41.0%、「6. 不安や悩みがある」が29.5%であった。

■図表 II-4-3 健康ではないと思う理由 (n=61) (複数回答 | 最大3つまで選択)



その他

①病気、持病、通院 (7件)、②慢性的な腰痛、③更年期、④ストレスなど、⑤家内の医療

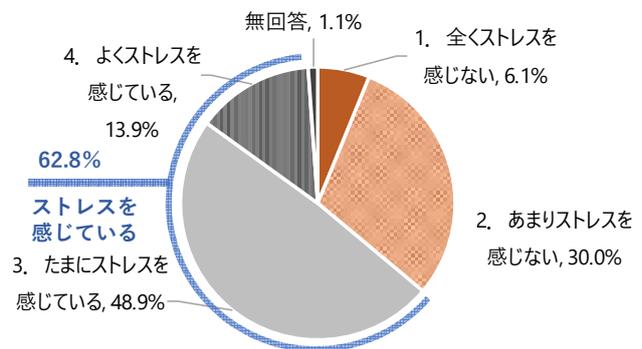
(4) ストレスについて

普段ストレスを感じることもあるかたずねたところ、「3. たまにストレスを感じている」の割合が48.9%と最も高く、次いで「2. あまりストレスを感じない」が30.0%、「4. よくストレスを感じている」が13.9%であった。「たまにストレスを感じている」と「よくストレスを感じている」を合わせた、比較的ストレスを感じている人は6割以上となっている。

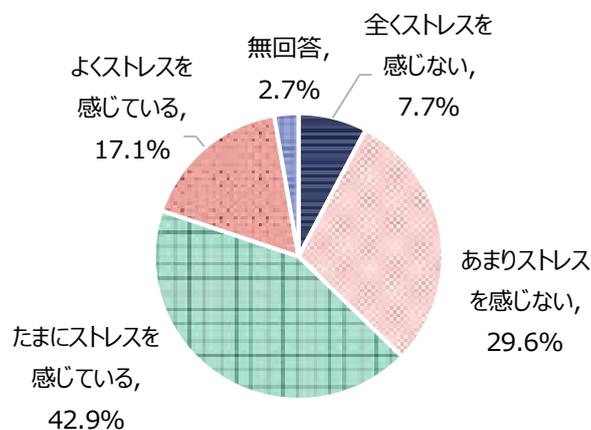
なお、R2 調査と比較すると、全体的に大きな変化は見られないが、「4. よくストレスを感じている」の割合がやや低下している。

■図表Ⅱ-4-4 ストレスについて (n=180)

	件数	%
1. 全くストレスを感じない	11	6.1%
2. あまりストレスを感じない	54	30.0%
3. たまにストレスを感じている	88	48.9%
4. よくストレスを感じている	25	13.9%
無回答	2	1.1%
合計	180	100.0%



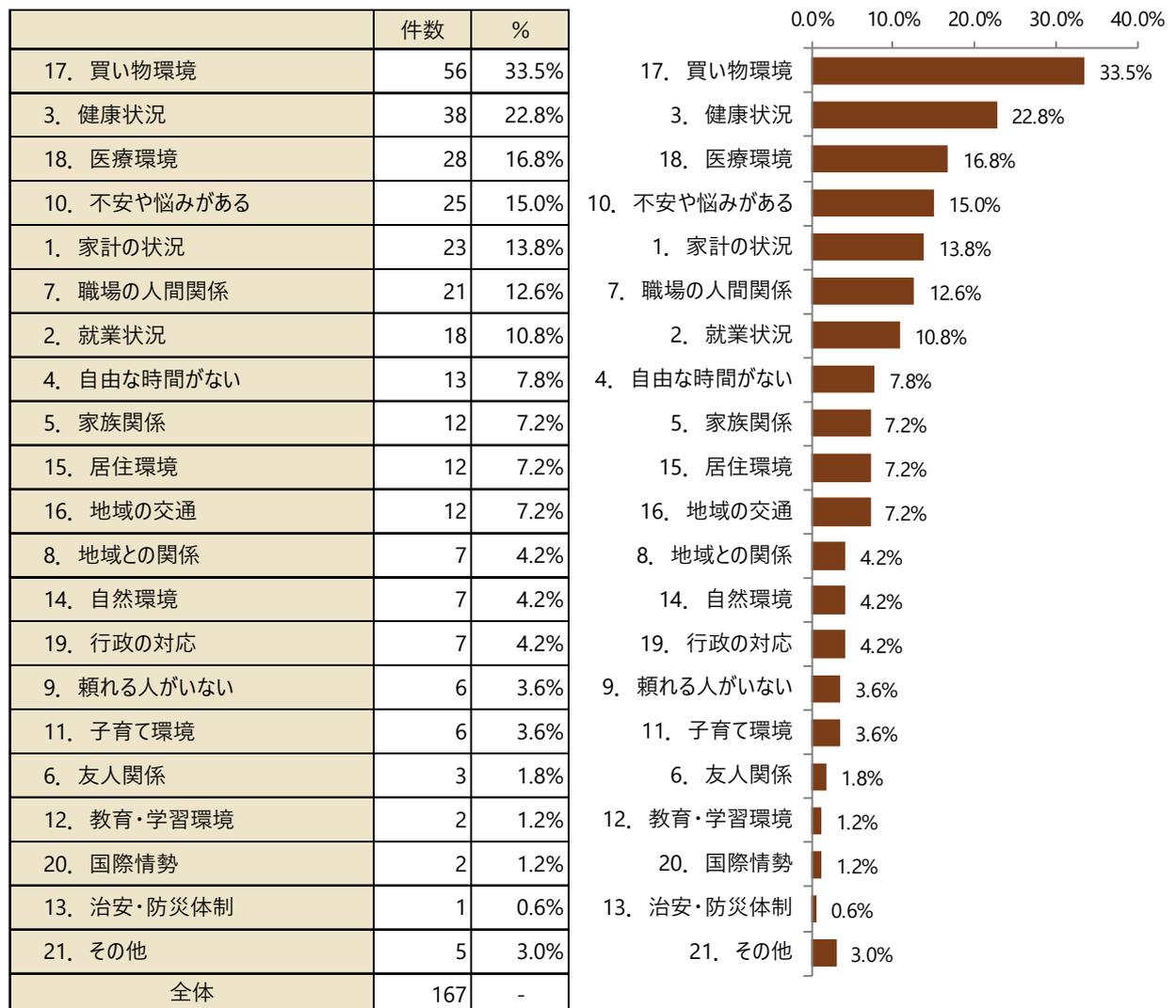
【参考】R2 調査結果 n = 520



(5) ストレスの理由

(4) で「あまりストレスを感じない」「たまにストレスを感じている」「よくストレスを感じている」と回答した方のストレスを感じる理由は、「17. 買い物環境」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「3. 健康状況」が 22.8%、「18. 医療環境」16.8%であった。

■図表 II-4-5 ストレスの理由 (n=167) (複数回答 | 最大 3 つまで選択)



その他

- ①広いのに散歩、山歩きできず(クマの為)、②冬期間の雪の処理、③雪投げ、吹雪、④経営状況、⑤副業先の人間関係、かつ辞められない状況

5. 幸福度について

(1) 幸福度について

現在、どの程度幸福だと感じているか、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を1点として幸福度をたずねた。

「8点以上9点未満」の割合が26.7%と最も高く、次いで「5点以上6点未満」が21.1%、「7点以上8点未満」が19.4%となっている。幸福度の平均は、6.85点であった。

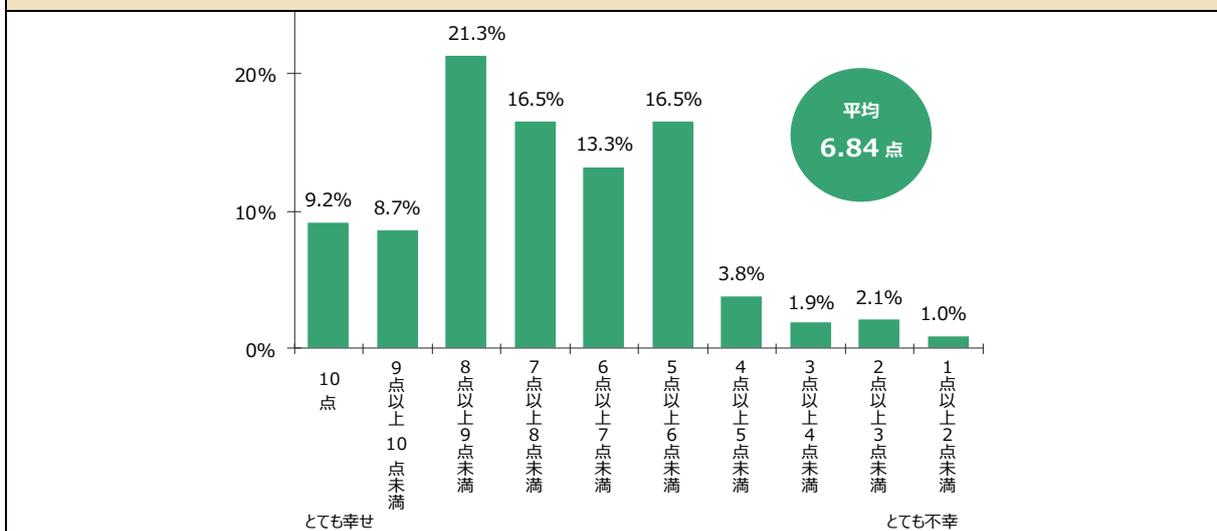
R2 調査と比較すると、平均はほぼ変わらない結果となった。

■図表 II-5-1 幸福度について (n=180)

	件数	%
10点 (とても幸せ)	13	7.2%
9点以上10点未満	13	7.2%
8点以上9点未満	48	26.7%
7点以上8点未満	35	19.4%
6点以上7点未満	21	11.7%
5点以上6点未満	38	21.1%
4点以上5点未満	3	1.7%
3点以上4点未満	3	1.7%
2点以上3点未満	3	1.7%
1点以上2点未満	1	0.6%
無回答	2	1.1%
合計	180	100.0%
平均		6.85



【参考】 R2 調査結果 n = 520



※留意事項

- ・ 前回 2020 (R2) 年に配布した調査票では、設問の文中では『『とても不幸』を 0 点として』と記載されていたが、記入欄では『とても不幸』が 1 点と記載されていた。当時発注者側と受注者側との連携不足によりこうした事態が発生したところであったが、継続的に統一した指標で比較することが望ましいことから、前回と同様、今回も、『とても不幸』を 1 点として (10 段階で) 尋ねることとした。
- ・ なお、中頓別町保健福祉部で実施する日常生活圏域ニーズ調査や、内閣府が行う「満足度・生活の質に関する調査」(※2)、「世界幸福度ランキング」(※3)などは、0-10 の 11 段階となっていることから、下記補正を行った

[10 段階の幸福度スコア -1] × 10 / 9

	得点	補正
最も不幸	1	0.000
	2	1.111
	3	2.222
	4	3.333
	5	4.444
	6	5.556
	7	6.667
	8	7.778
	9	8.889
最も幸せ	10	10.000

- ・ 以上を踏まえて、他調査の幸福度を比較すると下記のとおり。

中頓別 R5 調査 ※補正	中頓別 R2 調査 ※補正	内閣府調査 (※1)	世界幸福度報告書 (2023 年調査 での日本) (※2)	R5 中頓別日常生活圏域ニーズ調査 (※3)
6. 5 0	6. 4 8	5. 7 9	6. 1 2 9	6. 7 6

(※1) 内閣府令和 5 年度「満足度・生活の質に関する調査」。内閣府では、これまで 4 回にわたって、主観的 Well-being の代表的な指標として、現在の生活にどの程度満足しているかを 0~10 点で自己評価する総合的な生活満足度調査を実施してきている。

参照：<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/index.html> (2024 年 1 月 4 日閲覧)

(※2) 「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」(SDSN) が実施した「World Happiness Report (世界幸福度報告書)」(2023 年版)。調査は米ギャラップ社の世論調査をベースにしており、各国の約 1000 人に「最近の自分の生活にどれくらい満足しているか」を尋ね、0 (完全に不満) から 10 (完全に満足) の 11 段階で答えてもらう方式で国ごとの幸福度を測定している。

参照：<https://worldhappiness.report/ed/2023/> (2024 年 1 月 4 日閲覧)

(※3) 中頓別町介護保険事業計画を策定するタイミングで 3 年に 1 度実施している調査であり、R5 年度調査では、中頓別町在住の要介護 (要介護 1~5) 認定者を除く 65 歳以上高齢者 496 人を対象とし、363 人から回答があった。

(2) 幸福度の判断について

幸福かどうか判断する際に重視することをたずねたところ、「3. 健康状況」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「9. 家族関係」が 33.3%、「1. 家計の状況」が 28.3%であった。

R2 調査と比較すると、「3. 健康状況」が約 10 ポイント上昇、「12. 地域との関係」が約 4 ポイント上昇した。

■図表 II-5-2 幸福度の判断について (n=180) (複数回答 | 最大 3 つまで選択)

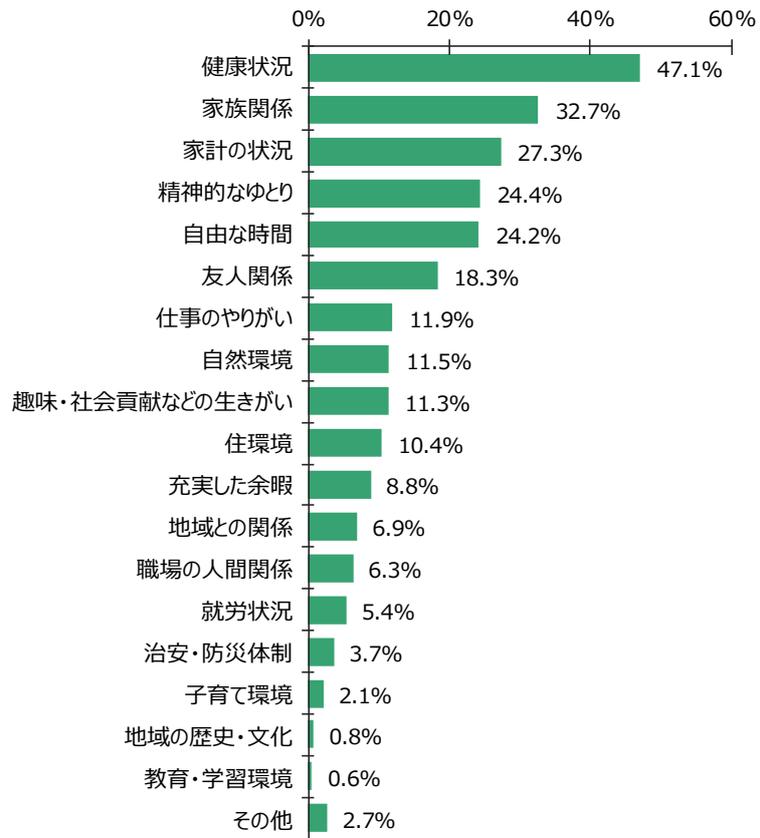
	件数	%
3. 健康状況	105	58.3%
9. 家族関係	60	33.3%
1. 家計の状況	51	28.3%
7. 精神的なゆとり	47	26.1%
4. 自由な時間	36	20.0%
8. 趣味・社会貢献などの生きがい	27	15.0%
10. 友人関係	22	12.2%
6. 仕事のやりがい	21	11.7%
5. 充実した余暇	20	11.1%
12. 地域との関係	20	11.1%
17. 自然環境	17	9.4%
2. 就業状況	13	7.2%
11. 職場の人間関係	12	6.7%
18. 居住環境	12	6.7%
13. 子育て環境	3	1.7%
15. 治安・防災体制	3	1.7%
16. 地域の歴史・文化	3	1.7%
14. 教育・学習環境	2	1.1%
19. その他	2	1.1%
全体	180	-



その他

①他と比較しない、②今は夫婦二人だが、どちらかが一人になった場合の不安

【参考】 R2 調査結果 n = 520



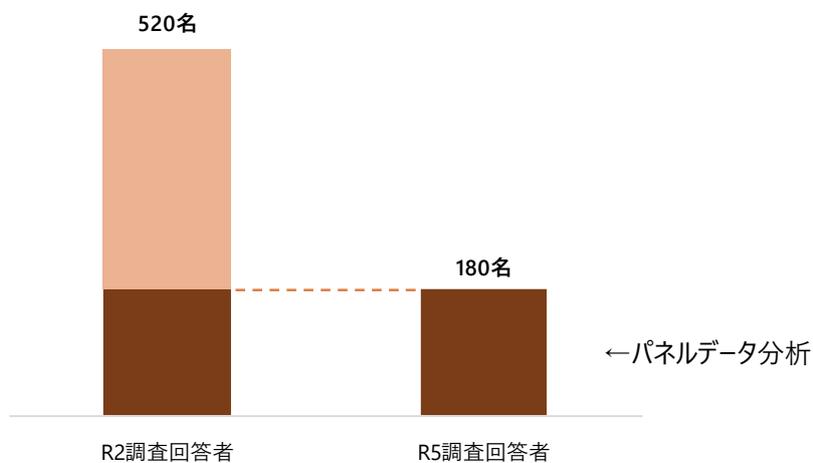
III

パネル調査分析について

本調査では、町の施策の影響や町民の幸福度を多角的に測るため、同じ回答者が複数回にわたり同じ設問に回答し、その変化を追跡して分析するパネル調査分析を想定して設計されている。

2020（R2）年の調査（R2 調査）で今後のパネル調査に協力意向のあった 580 名の回答者のうち、本調査（2023（R5）年調査（※以下、R5 調査））で回答が得られたのは 180 名であった（下図参照）。

■ 図表 III-1 パネルデータ分析の対象



本章では、R2 調査と R5 調査双方に回答した 180 名に焦点を当てて、下記の項目に関し、同一人物にどのような回答の変化が見られたかを分析し、整理することとする。

- 就労状況の変化について
- 外出頻度の変化について
- 健康状態の変化について
- ストレスの変化について
- 幸福度の変化について

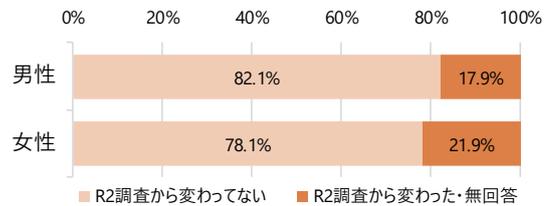
1. 就労状況の変化について（パネルデータ分析）

R2 調査と R5 調査において、就労状況が変わっていない人は 144 名、変わった人は 36 名（無回答を含む）であった。変わっていない人を性別で見ると、男性が 82.1%、女性が 78.1%と男性の方が変わっていない人の割合が高かった。年代別にみると、稼働年齢層である 60 歳未満はほとんどが変わっていないが、60 代と 70 代では変わった人の割合が他の年齢層と比べて高く、60 歳-69 歳が 35.0%、70 歳-79 歳が 31.3%であった。就労状況が変わった後を見ると、「働いていない」が最も多く、高齢者でリタイヤしている人が多くを占めている。

就労状況の変化したかどうかで就労状況の満足度をみると、変わった人で満足度を回答した人のほとんど（9 名）が満足している（※1 名は分からないと回答）。

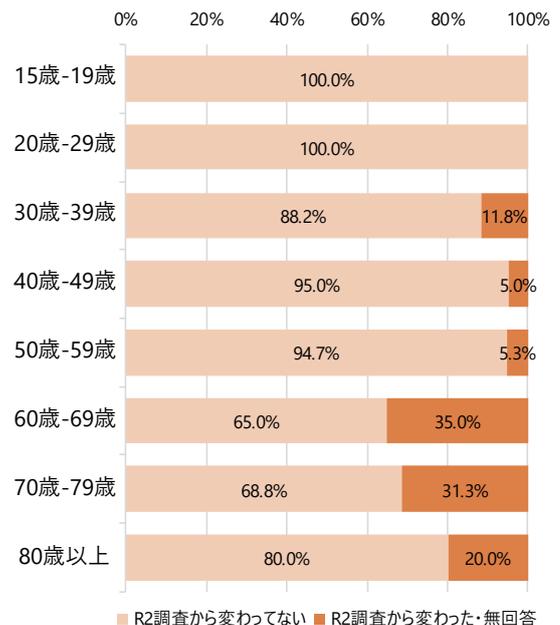
■図表 III-1-1 性別・就労状況の変化（n=180）

		就労状況の変化		合計
		R2調査から変わってない	R2調査から変わった・無回答	
性別	男性	69 82.1%	15 17.9%	84 100.0%
	女性	75 78.1%	21 21.9%	96 100.0%
合計		144 80.0%	36 20.0%	180 100.0%



■図表 III-1-2 年代別・就労状況の変化（n=180）

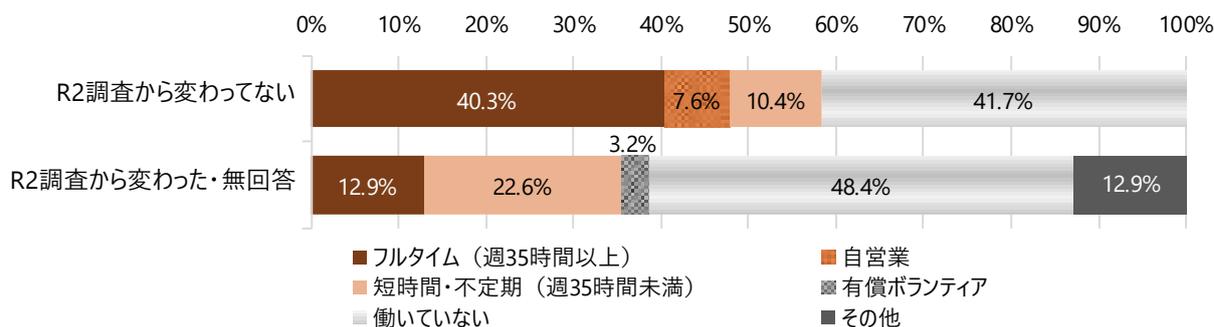
		就労状況の変化		合計
		R2調査から変わってない	R2調査から変わった・無回答	
年代	15歳-19歳	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	20歳-29歳	5 100.0%	0 0.0%	5 100.0%
	30歳-39歳	15 88.2%	2 11.8%	17 100.0%
	40歳-49歳	19 95.0%	1 5.0%	20 100.0%
	50歳-59歳	18 94.7%	1 5.3%	19 100.0%
	60歳-69歳	13 65.0%	7 35.0%	20 100.0%
	70歳-79歳	33 68.8%	15 31.3%	48 100.0%
	80歳以上	40 80.0%	10 20.0%	50 100.0%
合計		144 80.0%	36 20.0%	180 100.0%



■図表III-1-3 2023（R5）年の就労状況別・就労状況の変化（n=175）

		R5調査の就労状況					合計	
		フルタイム（週35時間以上）	自営業	短時間・不定期（週35時間未満）	有償ボランティア	働いていない		その他
就労状況の変化	R2調査から変わってない	58 40.3%	11 7.6%	15 10.4%	0 0.0%	60 41.7%	0 0.0%	144 100.0%
	R2調査から変わった・無回答	4 12.9%	0 0.0%	7 22.6%	1 3.2%	15 48.4%	4 12.9%	31 100.0%
合計		62 35.4%	11 6.3%	22 12.6%	1 0.6%	75 42.9%	4 2.3%	175 100.0%

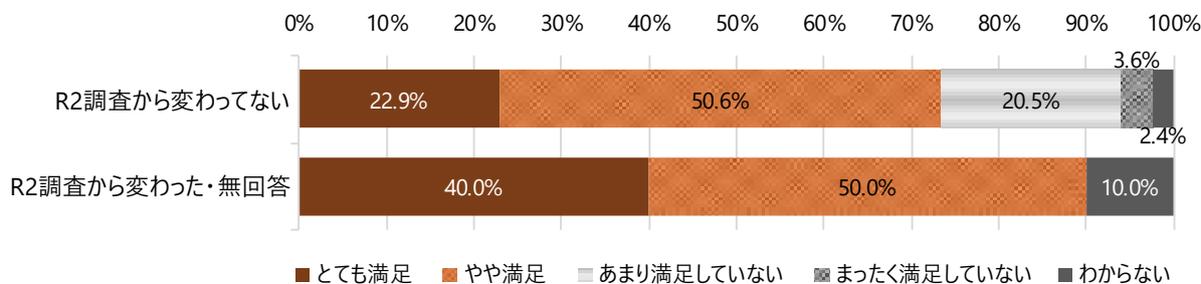
※R5 調査で就労状況が不明な人は上記表より除いている。



■図表III-● 2023（R5）年の就労状況の満足度別・就労状況の変化（n=93）

		就労状況の満足度					合計
		とても満足	やや満足	あまり満足していない	まったく満足していない	わからない	
就労状況の変化	R2調査から変わってない	19 22.9%	42 50.6%	17 20.5%	3 3.6%	2 2.4%	83 100.0%
	R2調査から変わった・無回答	4 40.0%	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	10 100.0%
合計		23 24.7%	47 50.5%	17 18.3%	3 3.2%	3 3.2%	93 100.0%

※満足度の回答がない人は上記表より除いている。



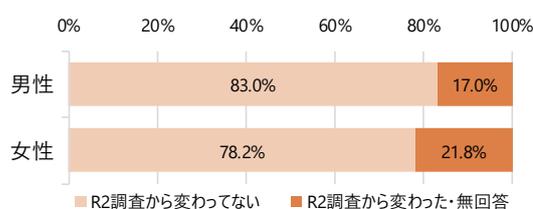
前頁の分析では、就労状況が変化した多くは高齢者で、かつ、無職になったものと指摘できることから、次に、60歳以上の回答者で、かつ、R5調査で「働いていない」と回答した人を除いて集計を行った結果が下図である。

これをみても、全体の約8割が就労状況は変わっていないが、男女別にみると、女性の方が変わった割合が高い。年代別にみると、(働いていない人は除き)高齢者の方が就労状況の変化がある。変化後の就労状況を見ると、就労状況の回答があった16人のうち7名が短時間・不規則の就労となっている。

なお、R2調査で「働いていない」と回答し、R5で何らかの就労を開始した人は全体の2名であった(男女・1名ずつ、ともに80代以上、短時間・不規則、満足と回答※図表略)。逆に、R2調査で何らかの就労をしており、R5調査で「働いていない」と回答したのは14名であった(男性6・女性8、全員60歳以上※図表略)。

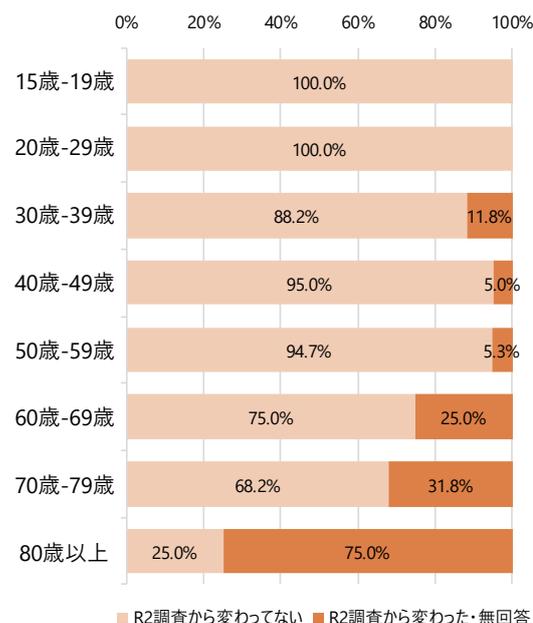
■図表III-1-4 性別・就労状況の変化 ※60歳以上で無職の人を除く (n=108)

		就労状況の変化		合計
		R2調査から変わっていない	R2調査から変わった・無回答	
性別	男性	44 83.0%	9 17.0%	53 100.0%
	女性	43 78.2%	12 21.8%	55 100.0%
合計		87 80.6%	21 19.4%	108 100.0%



■図表III-1-5 年代別・就労状況の変化 ※60歳以上で無職の人を除く (n=108)

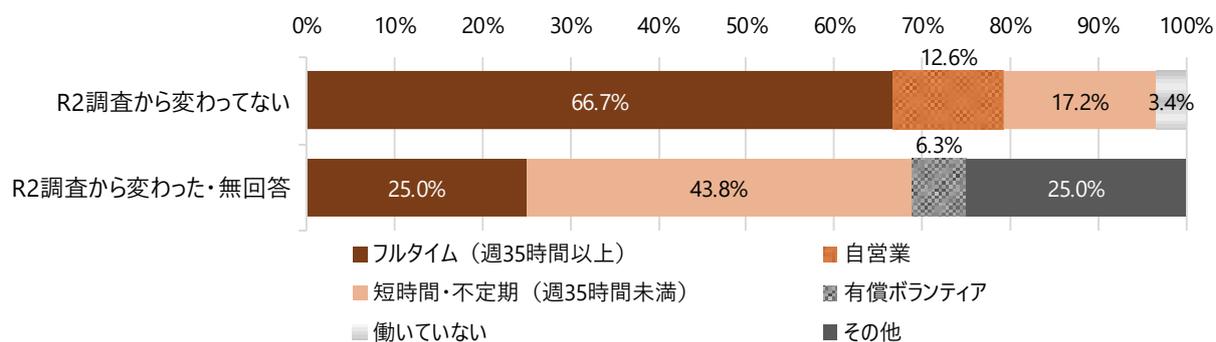
		就労状況の変化		合計
		R2調査から変わっていない	R2調査から変わった・無回答	
年代	15歳-19歳	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	20歳-29歳	5 100.0%	0 0.0%	5 100.0%
	30歳-39歳	15 88.2%	2 11.8%	17 100.0%
	40歳-49歳	19 95.0%	1 5.0%	20 100.0%
	50歳-59歳	18 94.7%	1 5.3%	19 100.0%
	60歳-69歳	12 75.0%	4 25.0%	16 100.0%
	70歳-79歳	15 68.2%	7 31.8%	22 100.0%
	80歳以上	2 25.0%	6 75.0%	8 100.0%
	合計		87 80.6%	21 19.4%



■図表 III-1-6 2023 年の就労状況別・就労状況の変化 ※60 歳以上で無職の人を除く (n=103)

		R5調査の就労状況						合計
		フルタイム (週35時間以上)	自営業	短時間・不定期 (週35時間未満)	有償ボランティア	働いていない	その他	
就労状況の変化	R2調査から変わってない	58 66.7%	11 12.6%	15 17.2%	0 0.0%	3 3.4%	0 0.0%	87 100.0%
	R2調査から変わった・無回答	4 25.0%	0 0.0%	7 43.8%	1 6.3%	0 0.0%	4 25.0%	16 100.0%
合計		62 60.2%	11 10.7%	22 21.4%	1 1.0%	3 2.9%	4 3.9%	103 100.0%

※R5 調査の就労状況が不明な人は上記表より除いている。

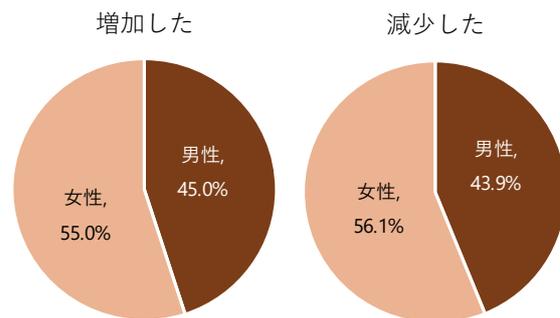


2. 外出の頻度の変化について（パネルデータ分析）

3年前と比べて外出の頻度が増加したと回答したのは20名（11.1%）、減少したのは57名（31.6%）、変わらないと回答したのは100名（55.5%）であった。外出の頻度が増加したのは、男性よりも女性の割合が高く、また、年代別に見ると、30歳代が多く占めている。外出の頻度が減少したのも女性が多く、年代別に見ると70歳代以上が6割を占めている。

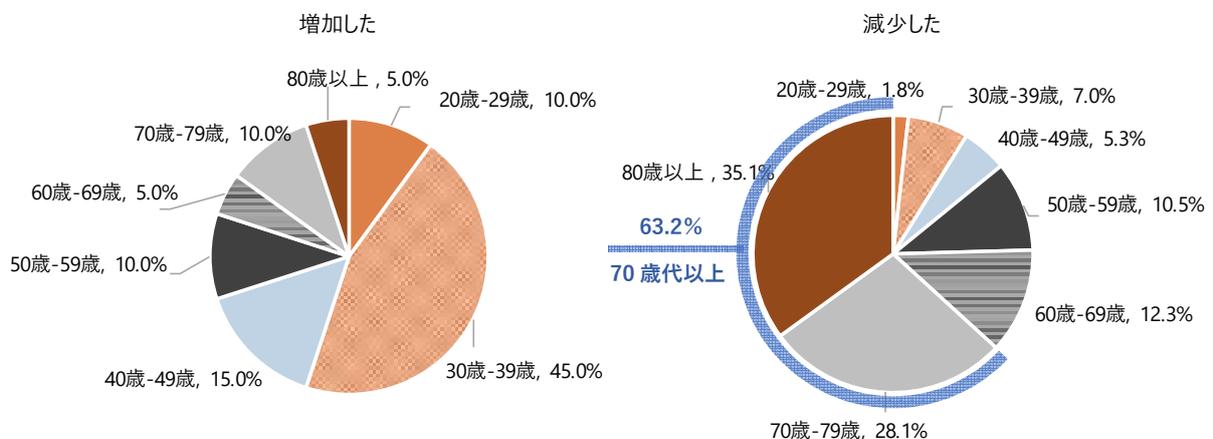
■図表III-2-1 性別・外出頻度の変化（n=180）

(3年前と比べて)		性別		合計
		男性	女性	
外出頻度の変化	増加した	9 45.0%	11 55.0%	20 100.0%
	減少した	25 43.9%	32 56.1%	57 100.0%
	変わらない	49 49.0%	51 51.0%	100 100.0%
	わからない	1 33.3%	2 66.7%	3 100.0%
合計		84 46.7%	96 53.3%	180 100.0%



■図表III-2-2 年代別・外出頻度の変化（n=180）

(3年前と比べて)		性別								合計
		15歳-19歳	20歳-29歳	30歳-39歳	40歳-49歳	50歳-59歳	60歳-69歳	70歳-79歳	80歳以上	
外出頻度の変化	増加した	0 0.0%	2 10.0%	9 45.0%	3 15.0%	2 10.0%	1 5.0%	2 10.0%	1 5.0%	20 100.0%
	減少した	0 0.0%	1 1.8%	4 7.0%	3 5.3%	6 10.5%	7 12.3%	16 28.1%	20 35.1%	57 100.0%
	変わらない	1 1.0%	1 1.0%	4 4.0%	14 14.0%	10 10.0%	12 12.0%	30 30.0%	28 28.0%	100 100.0%
	わからない	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
合計		1 0.6%	5 2.8%	17 9.4%	20 11.1%	19 10.6%	20 11.1%	48 26.7%	50 27.8%	180 100.0%



3. 健康状態の変化について（パネルデータ分析）

R2 調査と R5 調査の健康状態を比較し、その変化について整理したのが下表である。なお、どちらの時点においても「1. 健康だと思う」「2. どちらかという健康だと思う」と回答した人を「健康」とし、「3. どちらかという健康だと思わない」「4. 健康だと思わない」と回答した人を「健康ではない」として集計した。

R2 調査「健康」で R5 調査も「健康」と回答した人が最も多く 101 人で 6 割弱に上った。次いで、R2 調査「健康ではない」から R5 調査も「健康ではない」が、32 人で全体の 18.2%であった。

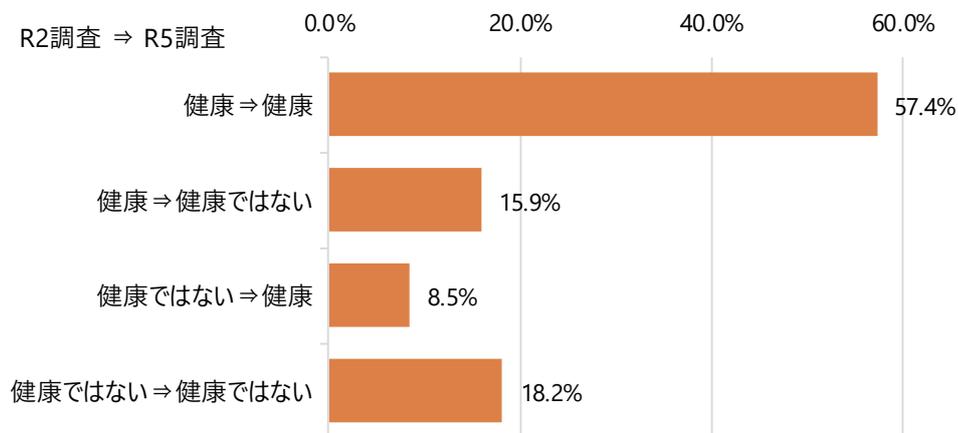
R2 調査「健康」から R5 調査「健康ではない」に変化した人は 28 人で全体の 15.9%となっている。年代の内訳をみると高齢者の割合が高いが、回答者の年齢構成と比較すると 50 歳代の割合が高くなっている（50 歳代回答者割合 10.6%に対し、ここでは 50 歳代が 17.9%）。

R2 調査「健康ではない」から R5 調査「健康」に変化したのは、男性の割合が高い。年代別で見ると、高齢者でも一定の割合で回答していることがわかる。ただし、本調査に協力できた人が比較的「健康」な人であるというバイアスも考慮する必要がある。

■図表 III-3-1 健康状態の変化（n=176）

R2 調査	R5 調査	件数	割合
①健康 →	健康	101	57.4%
②健康 →	健康ではない	28	15.9%
③健康ではない →	健康	15	8.5%
④健康ではない →	健康ではない	32	18.2%
合計		176	100.0%

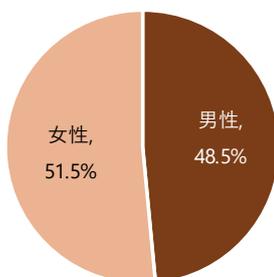
※無回答は除いて集計



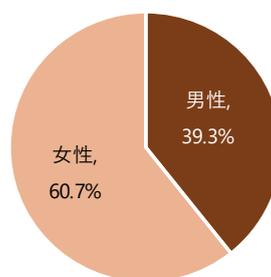
■図表 III-3-2 性別・健康状態の変化 (n=176)

R2調査 ⇒ R5調査		性別		合計
		男性	女性	
健康状態 の 変化	健康 ⇒ 健康	49	52	101
		48.5%	51.5%	100.0%
	健康 ⇒ 健康ではない	11	17	28
		39.3%	60.7%	100.0%
	健康ではない ⇒ 健康	8	7	15
		53.3%	46.7%	100.0%
	健康ではない ⇒ 健康ではない	15	17	32
		46.9%	53.1%	100.0%
合計		83	93	176
		47.2%	52.8%	100.0%

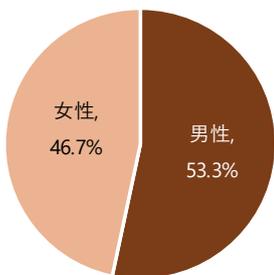
健康 ⇒ 健康



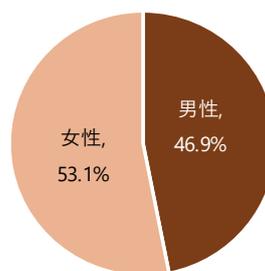
健康 ⇒ 健康ではない



健康ではない ⇒ 健康

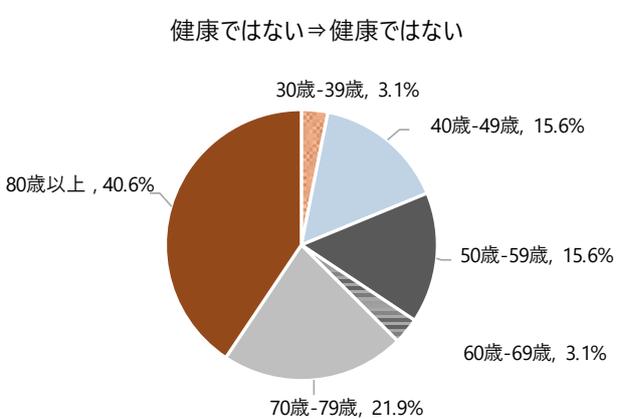
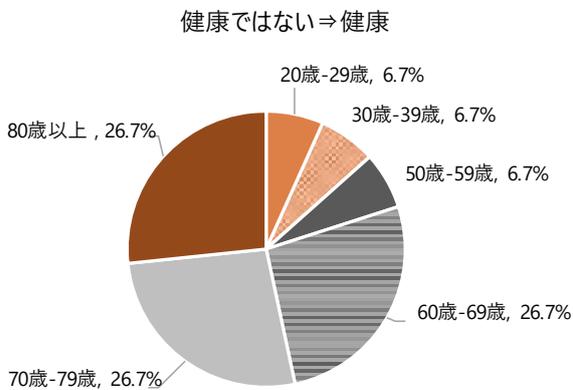
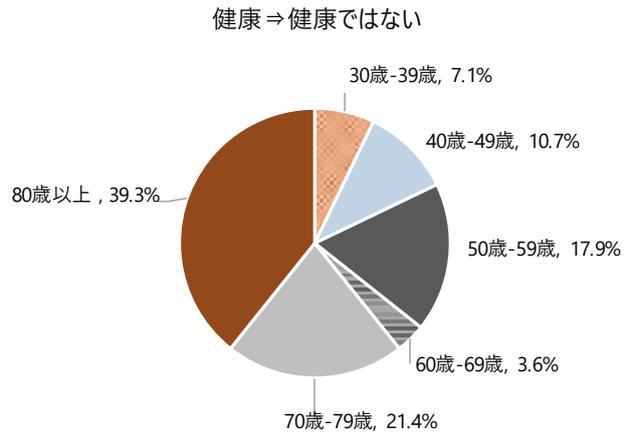
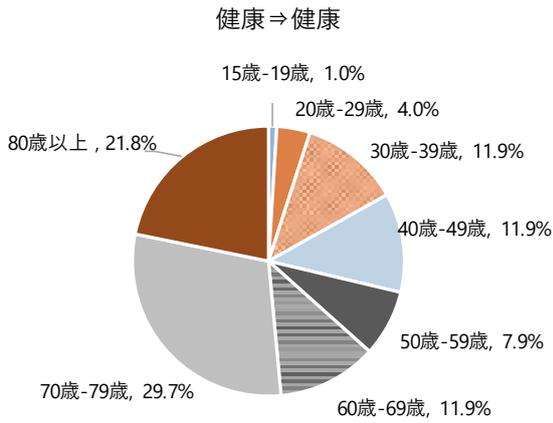


健康ではない ⇒ 健康ではない



■ 図表 III-3-3 年代別・健康状態の変化 (n=176)

R2調査 ⇒ R5調査		年齢								合計
		15歳-19歳	20歳-29歳	30歳-39歳	40歳-49歳	50歳-59歳	60歳-69歳	70歳-79歳	80歳以上	
健康状態の変化	健康 ⇒ 健康	1 1.0%	4 4.0%	12 11.9%	12 11.9%	8 7.9%	12 11.9%	30 29.7%	22 21.8%	101 100.0%
	健康 ⇒ 健康ではない	0 0.0%	0 0.0%	2 7.1%	3 10.7%	5 17.9%	1 3.6%	6 21.4%	11 39.3%	28 100.0%
	健康ではない ⇒ 健康	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	4 26.7%	4 26.7%	4 26.7%	15 100.0%
	健康ではない ⇒ 健康ではない	0 0.0%	0 0.0%	1 3.1%	5 15.6%	5 15.6%	1 3.1%	7 21.9%	13 40.6%	32 100.0%
合計		1 0.6%	5 2.8%	16 9.1%	20 11.4%	19 10.8%	18 10.2%	47 26.7%	50 28.4%	176 100.0%



4. ストレスの状態の変化について（パネルデータ分析）

R2 調査と R5 調査のストレス状態を比較し、その変化について整理したのが下表である。なお、どちらの時点においても「1. 全くストレスを感じない」「2. あまりストレスを感じない」と回答した人を「ストレスなし」とし、「3. たまにストレスを感じる」「4. よくストレスを感じる」と回答した人を「ストレス有り」として集計した。

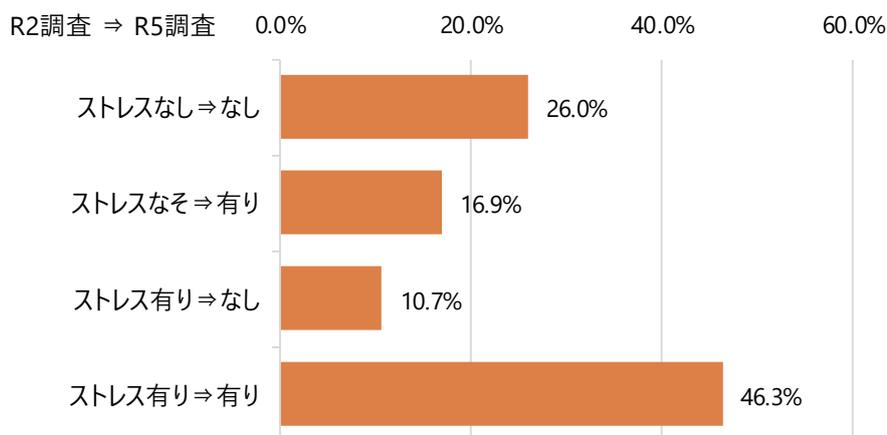
R2「ストレス有り」で R5 も「ストレス有り」という回答であった割合が最も多く 46.3%であった。次いで、R2「ストレスなし」R5「ストレスなし」が 26.0%となっている。

性別をみると、R2 調査で「ストレスなし」と回答し、R5 調査でも「ストレスなし」であったのは男性の割合がやや高く、R2 調査で「ストレス有り」R5 調査でも「ストレス有り」であったのは女性の方がやや高い割合を占めている。年代別でみると、仕事・子育てなどの現役世代である 30～50 代は R2 調査で「ストレス有り」と回答し、R5 調査でも「ストレス有り」と回答した割合が高かった。

■図表Ⅲ-4-1 ストレスの状態の変化（n=177）

R2 調査	R5 調査	件数	割合
①ストレスなし →	ストレスなし	46	26.0%
②ストレスなし →	ストレス有り	30	17.0%
③ストレス有り →	ストレスなし	19	10.7%
④ストレス有り →	ストレス有り	82	46.3%
合計		177	100.0%

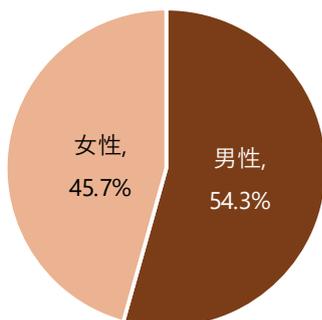
※無回答は除いて集計



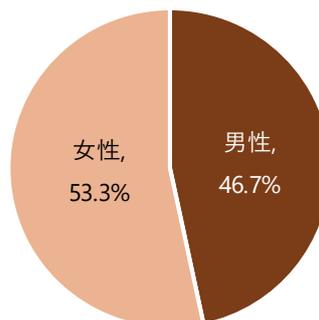
■図表 III-4-2 性別・ストレスの状態の変化 (n=177)

R2調査⇒R5調査		性別		合計
		男性	女性	
ストレスの変化	ストレスなし⇒なし	25	21	46
		54.3%	45.7%	100.0%
	ストレスなし⇒有り	14	16	30
		46.7%	53.3%	100.0%
	ストレス有り⇒なし	9	10	19
		47.4%	52.6%	100.0%
	ストレス有り⇒有り	35	47	82
		42.7%	57.3%	100.0%
合計		83	94	177
		46.9%	53.1%	100.0%

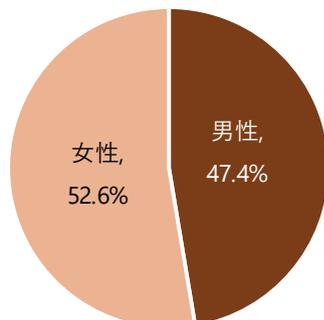
ストレスなし⇒なし



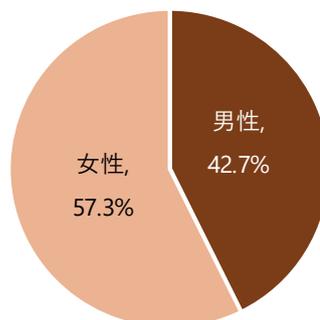
ストレスなし⇒有り



ストレス有り⇒なし

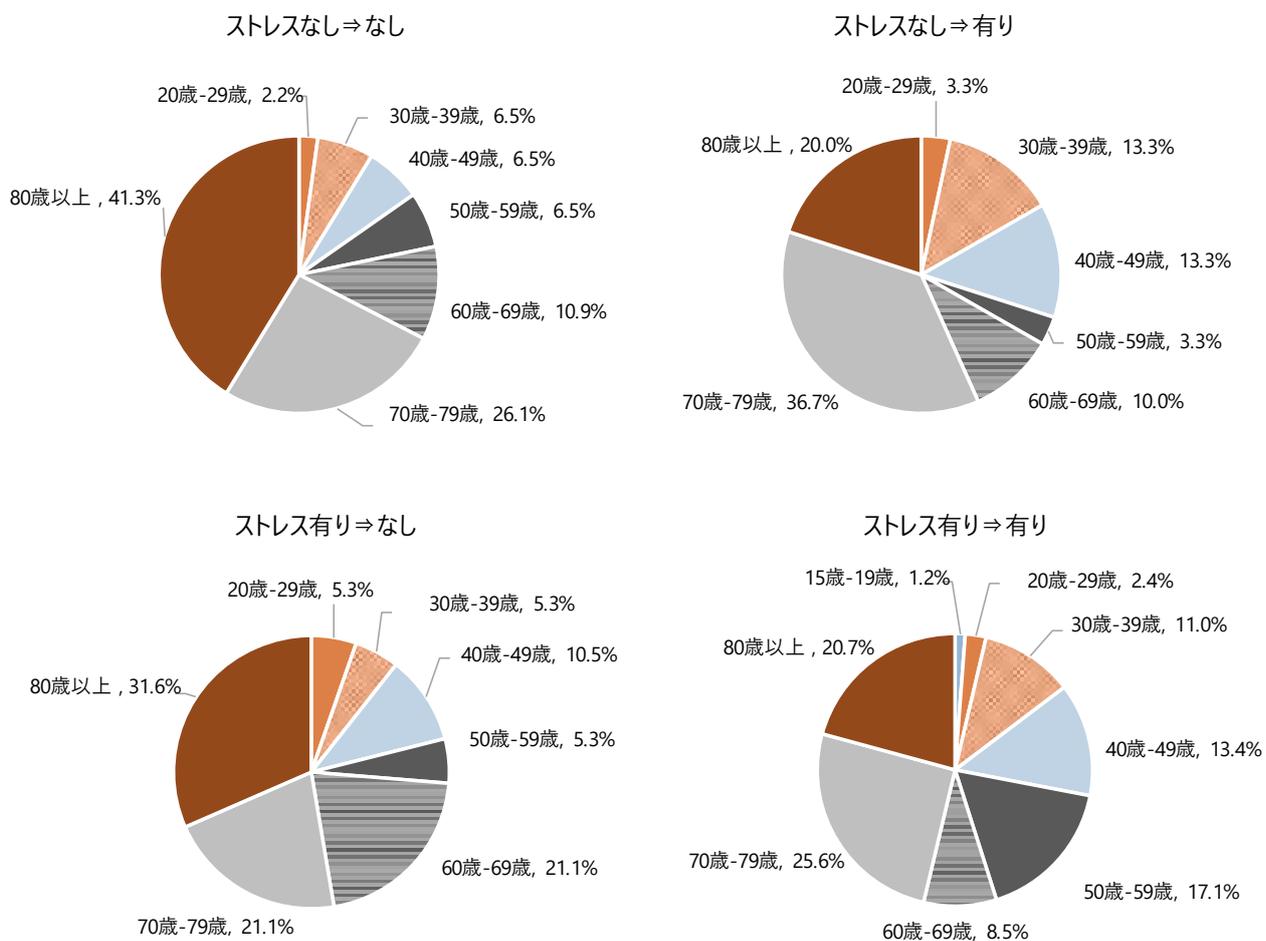


ストレス有り⇒有り



■図表III-4-3 年代別・ストレスの状態の変化 (n=177)

R2調査⇒R5調査		年齢								合計
		15歳-19歳	20歳-29歳	30歳-39歳	40歳-49歳	50歳-59歳	60歳-69歳	70歳-79歳	80歳以上	
ストレスの変化	ストレスなし⇒なし	0	1	3	3	3	5	12	19	46
		0.0%	2.2%	6.5%	6.5%	6.5%	10.9%	26.1%	41.3%	100.0%
	ストレスなし⇒有り	0	1	4	4	1	3	11	6	30
		0.0%	3.3%	13.3%	13.3%	3.3%	10.0%	36.7%	20.0%	100.0%
	ストレス有り⇒なし	0	1	1	2	1	4	4	6	19
		0.0%	5.3%	5.3%	10.5%	5.3%	21.1%	21.1%	31.6%	100.0%
	ストレス有り⇒有り	1	2	9	11	14	7	21	17	82
		1.2%	2.4%	11.0%	13.4%	17.1%	8.5%	25.6%	20.7%	100.0%
合計		1	5	17	20	19	19	48	48	177
		0.6%	2.8%	9.6%	11.3%	10.7%	10.7%	27.1%	27.1%	100.0%



5. 幸福度の変化について（パネルデータ分析）

P18 では、R2 調査の幸福度の平均は 6.84 であり、今回の R5 調査では 6.85 とほぼ変わらない結果と示した。ただし、P18 の R2 調査の結果は、R5 調査に回答していない人も含んでいる（R2 調査では n=520、R5 調査では n=180）。R5 調査で幸福度を回答し、かつ、R2 調査にも回答している 174 人の幸福度を比較すると、R2 調査時の幸福度の平均は 7.14 となっていた。これに比べると、R5 調査での幸福度は 0.29 ポイント低下している。

なお、内閣府（下記出典参照）の調査の 2 時点と比較しても低下している。また、この数字は、R2 と R5 の回答者は別であることに留意が必要である。

■図表 III-5-1 中頓別幸福度調査のパネルデータでの幸福度の変化

R 2 調査時 (n=174)	R 5 調査時 (n=180)
7. 1 4	6. 8 5
※参考 R 2 調査時 (n=520)	
6. 8 4	

■図表 III-5-2 内閣府調査での幸福度の変化

R 2 調査時	R 5 調査時
5. 8 3	5. 7 9

（出典）内閣府令和 5 年度「満足度・生活の質に関する調査」
参照：<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/pdf/report07.pdf>
（2024 年 1 月 4 日閲覧）

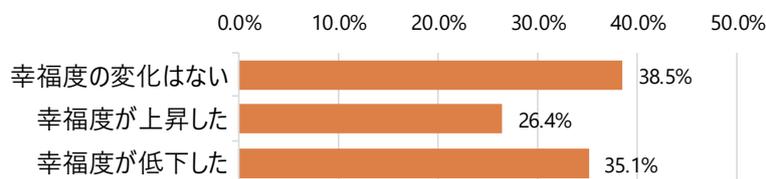
次に、同じ174人のうち、幸福度の変化について割合をみると、「①変化はない」が38.5%、「②上昇した」は26.4%、「③低下した」は35.1%であった。

幸福度が低下した人は、男性に比べ女性の割合が高く、年代別で見ると20歳代、40歳代、80歳以上が4割以上であった。

■図表Ⅲ-5-3 幸福度の変化 (n=174)

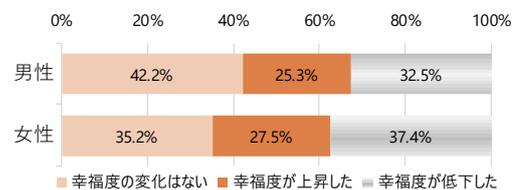
幸福度変化	件数	割合
①幸福度の変化はない	67	38.5%
②幸福度が上昇した	46	26.4%
③幸福度が低下した	61	35.1%
合計	174	100.0%

■図表Ⅲ-5-4 幸福度の変化 (n=174)



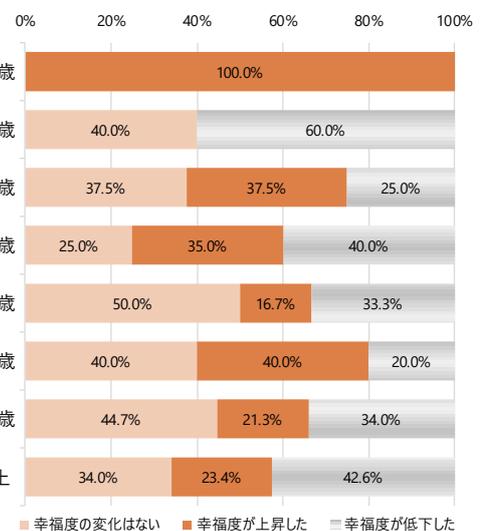
■図表Ⅲ-5-5 性別・幸福度の変化 (n=174)

		幸福度の変化 R2調査⇒R5調査			合計
		幸福度の変化はない	幸福度が上昇した	幸福度が低下した	
性別	男性	35 42.2%	21 25.3%	27 32.5%	83 100.0%
	女性	32 35.2%	25 27.5%	34 37.4%	91 100.0%
合計		67 38.5%	46 26.4%	61 35.1%	174 100.0%



■図表Ⅲ-5-6 年代別・幸福度の変化 (n=174)

		幸福度の変化 R2調査⇒R5調査			合計
		幸福度の変化はない	幸福度が上昇した	幸福度が低下した	
年代	15歳-19歳	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	20歳-29歳	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	5 100.0%
	30歳-39歳	6 37.5%	6 37.5%	4 25.0%	16 100.0%
	40歳-49歳	5 25.0%	7 35.0%	8 40.0%	20 100.0%
	50歳-59歳	9 50.0%	3 16.7%	6 33.3%	18 100.0%
	60歳-69歳	8 40.0%	8 40.0%	4 20.0%	20 100.0%
	70歳-79歳	21 44.7%	10 21.3%	16 34.0%	47 100.0%
	80歳以上	16 34.0%	11 23.4%	20 42.6%	47 100.0%
	合計		67 38.5%	46 26.4%	61 35.1%



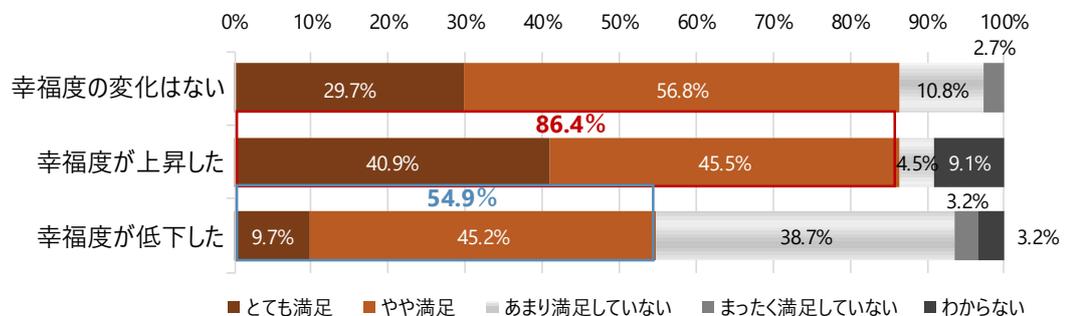
幸福度の変化にもたらされている影響を考察するため、幸福度の変化と各設問のクロス集計を行った。以下、主に差がみられた設問間クロス集計について整理する。

まず、就労の満足度別・幸福度の変化をみると、幸福度が上昇した人が就労状況に「満足している」「やや満足している」と回答した割合は合わせて86.4%になる一方、幸福度が低下した人の同じ割合は30ポイント以上低くなっている。

P20にある幸福度の判断については、「2. 就業状況」と回答している割合は7.2%と高くない。しかし、「6.仕事のやりがい」と「11.職場の人間関係」など就労に関連する項目もある程度影響を与えている可能性もある。

■図表 III-5-7 就労状況の満足度別・幸福度の変化 (n=90)

R2調査⇒R5調査		就労状況の満足度					合計
		とても満足	やや満足	あまり満足していない	まったく満足していない	わからない	
幸福度の変化	幸福度の変化はない	11	21	4	1	0	37
		29.7%	56.8%	10.8%	2.7%	0.0%	100.0%
	幸福度が上昇した	9	10	1	0	2	22
		40.9%	45.5%	4.5%	0.0%	9.1%	100.0%
	幸福度が低下した	3	14	12	1	1	31
		9.7%	45.2%	38.7%	3.2%	3.2%	100.0%
合計		23	45	17	2	3	90
		25.6%	50.0%	18.9%	2.2%	3.3%	100.0%



また、P13にもあるとおり、日常の暮らしの中で不安に感じることは、「6.健康上の不安」の割合が最も高いことを踏まえて、幸福度の変化別に注目すると、幸福度が低下した人では「6.健康上の不安」の割合が37.7%と、幸福度の変化はない人や上昇した人に比べて高くなっている。

さらに、健康状態の変化と、幸福度の変化の状況をみると、幸福度が低下した人は「健康⇒健康ではない」割合が30.0%と幸福度に変化がない人や上昇した人に比べ大幅に高く、現在R5調査の健康の割合は低くなっている。

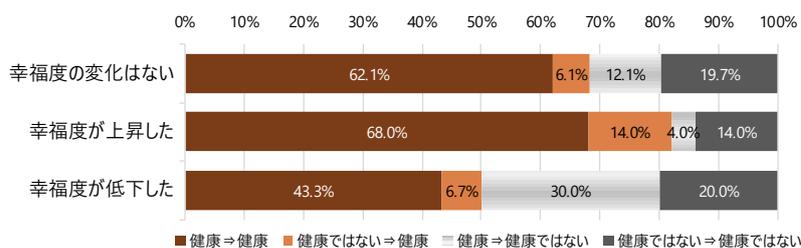
これらのことやP20を踏まえると、健康状態の変化が幸福度に影響を与えていることが示唆される。

■図表III-5-8 暮らしの不安別・幸福度の変化 (n=174)

		幸福度の変化 R2調査⇒R5調査			合計					
		幸福度の変化はない	幸福度が上昇した	幸福度が低下した		0%	10%	20%	30%	40%
暮らしの不安	1. 経済的な不安	8 11.9%	11 23.9%	12 19.7%	31 17.8%	1. 経済的な不安 11.9% 23.9% 19.7%				
	2. 雇用の場が少ないことへの不安	1 1.5%	3 6.5%	2 3.3%	6 3.4%	2. 雇用の場が少ないことへの不安 1.5% 6.5% 3.3%				
	3. 人口減少に対する不安	10 14.9%	3 6.5%	8 13.1%	21 12.1%	3. 人口減少に対する不安 6.5% 14.9% 13.1%				
	4. 国際情勢に対する不安	1 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	4. 国際情勢に対する不安 1.5%				
	5. 地震、豪雨等の災害に対する不安	4 6.0%	3 6.5%	3 4.9%	10 5.7%	5. 地震、豪雨等の災害に対する不安 6.0% 6.5% 4.9%				
	6. 健康上の不安	21 31.3%	14 30.4%	23 37.7%	58 33.3%	6. 健康上の不安 31.3% 30.4% 37.7%				
	7. 防犯・治安に対する不安	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7. 防犯・治安に対する不安				
	8. 子育てに対する不安	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	1 0.6%	8. 子育てに対する不安 1.6%				
	9. 介護に対する不安	9 13.4%	0 0.0%	1 1.6%	10 5.7%	9. 介護に対する不安 13.4% 1.6%				
	10. 教育・学習環境に対する不安	0 0.0%	1 2.2%	0 0.0%	1 0.6%	10. 教育・学習環境に対する不安 2.2%				
	11. その他	2 3.0%	4 8.7%	1 1.6%	7 4.0%	11. その他 3.0% 8.7% 1.6%				
	無回答	11 16.4%	7 15.2%	10 16.4%	28 16.1%	無回答 16.4% 15.2% 16.4%				
合計	67 100.0%	46 100.0%	61 100.0%	174 100.0%						

■ 図表 III-5-9 健康状態の変化別・幸福度の変化 (n=176)

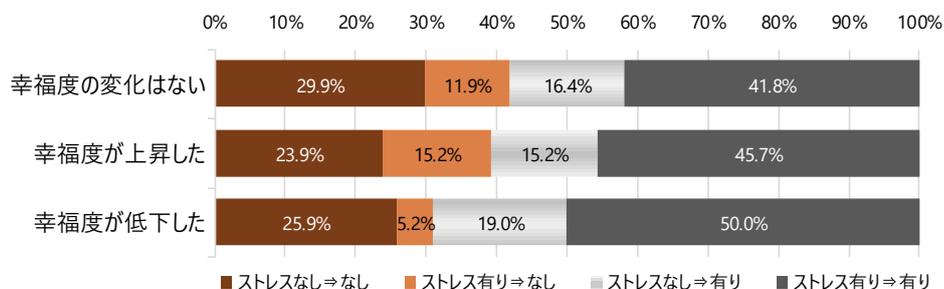
R2調査⇒R5調査		健康状態の変化 R2⇒R5				合計
		健康⇒健康	健康ではない⇒健康	健康⇒健康ではない	健康ではない⇒健康ではない	
幸福度の変化	幸福度の変化はない	41 62.1%	4 6.1%	8 12.1%	13 19.7%	66 100.0%
	幸福度が上昇した	34 68.0%	7 14.0%	2 4.0%	7 14.0%	50 100.0%
	幸福度が低下した	26 43.3%	4 6.7%	18 30.0%	12 20.0%	60 100.0%
合計		101 57.4%	15 8.5%	28 15.9%	32 18.2%	176 100.0%



ストレスの変化をみると、幸福度が上昇した人は、「ストレス有り⇒ストレスなし」の割合が幸福度の変化がない人や低下した人よりも高くなっている。また、幸福度が低下した人は、現在ストレスが有る割合が幸福度の変化がない人や上昇した人に比べて高かった。

■ 図表 III-5-10 ストレスの変化別・幸福度の変化 (n=171)

R2調査⇒R5調査		ストレスの変化 R2調査⇒R5調査				合計
		ストレスなし⇒なし	ストレス有り⇒なし	ストレスなし⇒有り	ストレス有り⇒有り	
幸福度の変化	幸福度の変化はない	20 29.9%	8 11.9%	11 16.4%	28 41.8%	67 100.0%
	幸福度が上昇した	11 23.9%	7 15.2%	7 15.2%	21 45.7%	46 100.0%
	幸福度が低下した	15 25.9%	3 5.2%	11 19.0%	29 50.0%	58 100.0%
合計		46 26.9%	18 10.5%	29 17.0%	78 45.6%	171 100.0%



なお、ここで挙げた以外にも「就労状況の変化」や「外出の頻度」などのクロス集計も行ったが、明確な差は見られなかった。

1. 調査結果のまとめ

(1) R5 調査結果について（単純集計、2時点比較）

本調査は、R2 調査で回答して頂いた町民を対象に、R2 調査と同じ設問や新たな設問を追加しアンケート調査を実施、氏名の記載があり R2 調査と比較ができる 180 名の回答から集計した結果をとりまとめた。

現在の就労状況については、高齢化の影響もあり R2 調査よりも、「働いていない」「短時間・不定期」との回答する人が増加した。また、3 割程度が「フルタイム」と回答している。就労状況の満足度は、7 割以上が現在の就労に「満足している」と回答している。

日常の暮らしの中で不安を感じるかどうかとの設問では、R2 調査と比較すると、「6. 健康上の不安」が増加しているほか、「1. 経済的不安」が増加し 2 番目となっており、高齢化やコロナ禍の影響が垣間見える。なお、「3. 人口減少に対する不安」や「9. 介護に対する不安」は若干ながら減少している。

健康状態について、R2 調査と比較すると、「1. 健康だと思う人」の割合は 6.6 ポイント減少している。健康ではないと思う理由は、「5. 運動不足」の割合が 42.6%と最も高く、次いで、「1. 心身の状況がよくない」が 41.0%、「6. 不安や悩みがある」が 29.5%であった。ここでも、高齢化やコロナ禍の影響があると思われる。ストレスは、全体的に R2 調査と大きな変化はみられないが、ストレスを感じる理由は、「17. 買い物環境」が 33.5%と最も高く、次いで「3. 健康状況」が 22.8%、「18. 医療環境」16.8%となっている。

現在、どの程度幸福だと感じているか、「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 1 点として幸福度をたずねたところ、幸福度の平均は、6.85 点であり、R2 調査と比較してもほぼ変わらない結果となった。また、内閣府等他調査の日本全体の幸福度調査と比較すると高い傾向がみられた。

幸福かどうか判断する際に重視することをたずねたところ、「3. 健康状況」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「9. 家族関係」が 33.3%、「1. 家計の状況」が 28.3%であった。R2 調査と比較すると、「3. 健康状況」が約 10 ポイント上昇し、健康への意識が高まっている。また、「12. 地域との関係」は約 8 ポイント上昇した。R2 調査と比べて幸福度の判断に地域とのつながりを意識する人が増えた可能性が指摘できる。

(2) R2 と R5 パネル調査について

R2 調査で今後のパネル調査に協力意向のあった 580 名の回答者のうち、R5 調査に記名がある回答が得られた 180 名を対象にパネル調査分析を行った。

R2 調査と R5 調査において、就労状況に変化がない人の割合が多くを占めた（8 割・144 名）が、R2 調査から変わった人は 60 代と 70 代が多く、高齢者が中心であった。なお、就労状況が変

わった人（無職を除く）で満足度を回答した人のほとんどが満足しており、また、短時間労働・不
定期といった働き方だった。

外出の頻度について、3年前と比べて「変わらない」と回答した人は100名（55.6%）だったが、増加した20名（11.1%）は男性よりも女性の割合が多く、また、外出頻度が増加した人を年
代別にみると、30歳代が多く占めており、ここでも外出制限緩和が影響してきているものと思わ
れる。逆に、外出の頻度が減少したのも女性が多く占めており、年代別にみると70歳代以上が6
割を占めている。

R2調査とR5調査の健康状態を比較すると、約6割が両時点で「健康」と回答しているが、R2
「健康」からR5「健康ではない」に変化した人は28人で全体の15.9%となっている。「健康⇒健
康ではない」と変化した人の年代の内訳をみると50歳代の割合が比較的高い（50歳代回答者割
合10.6%に対し、当該設問では17.9%）。

R2調査とR5調査のストレス状態を比較すると、どちらの時点においても「ストレス有り」と
回答した人が4割強存在しており、年代別でみると、30～50代の割合が比較的高い。

R2調査の幸福度の平均は6.84であり、R5調査では6.85とほぼ変わらない結果が示されたが、
ここでのR2の結果は、R5に回答していない人も含んでいる。そこで、R2調査とR5調査に同じ
方による回答があった174人の幸福度を比較すると、7.14（R2調査）⇒6.85（R5調査）と0.29
ポイント低下していることがわかった。なお、内閣府の調査をみても同様に低下していることか
ら、全国的な傾向と合致している。男女別にみると、幸福度が低下した人は、男性より女性の割
合が高く、年代別で見ると、20歳代、40歳代、80歳代で4割以上と高くなっている。30歳代と60
歳代は幸福度が上昇した人の割合が高くなっている。

幸福度の変化別に就労状況の満足度をみると、幸福度が上昇している人では就労状況に満足し
ていると回答している割合が9割近くにのぼっている。一方、幸福度が低下した人の同じ割合は
30ポイント以上低くなっていることから、幸福度には就労状況が影響している可能性がある。

暮らしの不安に関しては、幸福度が低下した人は、幸福度に変化がない人や上昇した人に比べ
「健康上の不安」と回答している割合が高くなっている。また、健康状態の変化をみても、「健
康⇒健康ではない」割合が30.0%と他よりも大幅に高くなっている。P20に示すように、幸福度
の判断には健康状態が大きく影響を与えている可能性もある。

ストレスの変化をみると、幸福度が上昇した人は、「ストレス有り⇒ストレスなし」の割合が
幸福度に変化がない人や上昇した人に比べ高く、現在ストレスが有る状態の割合も高い。

（3）調査結果の考察

本調査結果では、主にR2調査とR5調査との比較を行った。2020（R2）年は新型コロナウイルス感染症がまん延している中での調査であり、その結果はコロナ禍の影響を色濃く受けていたものといえる。一方、R5調査では2023（R5）年5月に新型コロナウイルスが5類に移行した後の調査実施であり、日常生活がコロナ禍「前」に近くなってきた中で行った調査だった。そのため、R2調査とR5調査の結果の差については、新型コロナウイルス感染症に関連する要素などが影響していることがうかがえた。

また、R2調査とR5調査では3年が経過していることもあり、回答者の高齢化の影響もあると

言える。R5 調査では 60 歳代以上が 65.6%を占めていることや、時間が経過することで健康状態が悪化した人も一定程度いたものと予想される。

2020 (R2) 年から 2023 (R5) 年の間において、中頓別町としても様々な施策を打ち、行政運営を行ってきているところであるが、町の施策と本調査と紐づけて考察するとしたら、以下の 4 点を指摘することができる。

まず、一点目としては、町では 2019 (R1) 年度より「過疎地域における働き方改革プロジェクト」を推進してきており、副業兼業の促進や短時間勤務の可能性を調査研究・広報してきたところである。そうした中で、今回の調査結果では R2 調査から R5 調査で就労状況が変化した人は「短時間・不定期」の働き方が比較的多いこと、そしてそうした人たちの就労に関する満足度が高いということが明らかになった。町の施策が直接的にどの程度影響しているかを判断することは難しいが、フルタイムではなく短時間・不定期の働き方も推進していくことは町民のニーズとも外れていないことが確認できる。

2 点目としては、日常の暮らしの中で不安を感じることもあるかの設問で、「3. 人口減少に対する不安」や「9. 介護に対する不安」が R5 調査では R2 調査に比べて減少している。町はこれまでも人口減少対策や高齢者福祉施策を実施してきており、そうしたことが効果を発揮している可能性を指摘できる。もちろん、例えば、新型コロナウイルスをはじめとしてそれら以外の不安が高まるなど、施策の影響度としては大きくない可能性もあるが、今後もこうした指標に配慮していくことは重要と思われる。

3 点目としては、町民のストレスに関連した施策を検討する必要性が指摘できる点である。ストレスを感じる町民の割合としては、全体的に R2 調査と大きな変化はみられないが、ストレスを感じる理由は、「17. 買い物環境」が 33.5%と最も高い (R2 調査では同様の設問なし)。日常生活での買い物がストレスの第一位に来るということは政策の優先度を考えていく上で注目すべき結果とも言える。また、パネルデータからは R2 調査と R5 調査ともにストレス有りと回答したのが 30～50 代の稼働年齢で仕事・子育てなどの現役世代である。そうした町民を意識した施策を展開することも、幸福度の向上につながると推察される。

4 点目としては、本調査の結果からは、幸福度の判断には、就業状態の満足度、健康状態とに関連があることが推測されることから、こうした点にフォーカスを当てる施策が幸福度に影響を与える可能性があるという点である。当然ながらこれ以外にも幸福度に影響を与える施策はあると思われるが (注)、これまでに取り組んできた健康づくりや働き方に関する施策は今後も継続していく重要性はあると思われる。なお、割合としては小さいが幸福度の判断の際に「地域との関係」と回答した割合も、R2 調査と比べて大きく上昇していることから、地域との関係を醸成していく施策もトレンドとして注目していく価値はあると言える。

(注) 例えば、米国の心理学者セリグマンが提唱した「PERMA の法則」では、幸福は以下の 5 つの要素で構成されていると提唱している。

Positive Emotion	前向きな感情 (うれしい、おもしろい、楽しい、感動するなど)
Engagement	時間を忘れて何かに没頭すること
Relationship	積極的で良好な人間関係を持つこと
Meaning and Purpose	何のために生きているか目的・意義を感じる
Achievement/Accomplish	何かを達成すること

2. 今後の調査設計について

本調査ではR2調査に回答いただいた町民を対象に、配布し回収した調査票をもとに分析した。前回(R2調査)の対象者は520名だったが、今回(R5調査)の追跡調査対象者となったのはR2調査対象の約35%の180名であった。今後、継続的にパネル調査を実施する場合、同じ方法を採用すると、追跡調査対象者はさらに少なくなり180名からも減少することが予想される。そのため、継続的に調査を行っていく際には、①今の対象者を継続した調査、に加え、②新たな対象者を増やした調査、の2パターンの調査を実施していくことも考えられる。

特に、今回の対象者(180名)は、高齢者の割合が比較的多く、町の人口構成と比較しても割合が高い。そのため、現状に即した、あるいはより若い人を意識的に対象者として増やすことも検討する余地があると思われる。ただし、その場合、①はパネル調査、②は定点観測的な調査となり、①②2つの分析となり、集計・分析作業の effort が大きくならざるを得ないことに留意が必要である。

また、町の施策と幸福度に影響について考察するため、設問間クロス集計を行った上で分析したが、アンケート結果のみで因果関係を示すことはそもそも困難である。そのため、アンケート以外の手法、例えば、特定の年代に絞った形でのFGI(フォーカス・グループ・インタビュー)を実施し、その際、例えば、特定の施策の影響をテーマ設定とすることも考えられる。幸福度に関しては、個人的な事情や心理的側面に大きく影響されることから、施策の妥当性について、インタビュー形式で議論しながら意見を収集していくことも効果的と思われる。

★参考：町長コメント

- ・定期的にこの調査を行っていくと、調査対象者数は減っていくだけだ。
- ・長く続けるとしたら、新たな対象者(年齢階層別に抽出など)を増やす方法も必要ではないか。

→パネル調査実施のための設計を考えるように。

第8期 中頓別町総合計画

町民 幸福度 アンケート調査

第2回

— ご協力のお願い —

中頓別町は、総合計画の達成度や町民の幸福度を時系列に測るため、「パネル調査」という手法を導入しました。パネル調査とは、同じ回答者が複数年度に渡り、同じ設問に回答し、その変化を追跡して分析調査を行うものです。

令和2年7月に協力いただいた第1回調査に引き続き本調査にご協力いただける方は、恐れ入りますが、記入欄にお名前とご住所をご記入いただき、同封の「政策経営グループ 行」と記した封筒に入れて郵便ポストへ投函いただくか、役場担当へご持参願います。

ご記載頂いた個人情報・内容については、厳正に管理するとともに、統計的に処理しますので、個人が特定されるような形で公表することはありません。なお、本調査の協力にご同意いただける方のみで構いません。

令和6年3月31日までに65歳になられる方を対象に保健福祉課より「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」のアンケートが別に送付されます。一部重複設問がありますこと、ご理解願います。

回 収	10/23(月)を目安に、同封の返信用封筒「政策経営グループ 行」に入れて郵便ポストへ投函をお願いします。連絡先の担当へご持参も可能です。
連絡先	中頓別町役場 政策経営課 担当：野田・左近

電話 01634-8-7671

(2) 就労状況の満足度 (※ (1) で「1」「2」「3」と回答した方)

あなたは、現在の働き方に満足していますか。
当てはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

1. とても満足
2. やや満足
3. あまり満足していない
4. まったく満足していない
5. わからない

(3) 満足していない理由 (※ (2) で「3」「4」と回答した方)

あなたが、現在の就労状況に満足していない理由は何ですか。
次の中から当てはまるものを最大3つまで選んで○をつけてください。

1. 給与が少ない
2. 従事時間が長い
3. 従事時間が短い
4. 仕事場の雰囲気
5. 仕事内容が自分に合わない
6. 仕事場までの距離が遠い
7. 子育てや介護との両立が難しい
8. その他 ()

(4) 町に求めること

あなたが、雇用環境について町に求めることは何ですか。(自由意見)

3. 日常生活について

(1) 外出頻度

あなたは、週に1回以上は外出していますか。
当てはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 週5回以上 | 2. 週2~4回 |
| 3. 週1回 | 4. ほとんど外出しない |

(2) 外出頻度の増減

あなたの外出は、3年前と比べて増加しましたか、減少しましたか。
当てはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 増加した | 2. 減少した |
| 3. 変わらない | 4. わからない |

(3) 増減の理由

外出頻度が増加または減少した理由は何ですか。
次の中から当てはまるものを最大3つまで選んで○をつけてください。

増えた理由	減った理由
1. 外出制限の解除	13. 外出する気分にならなくなった
2. 感染症への不安が軽減	14. 感染症への不安
3. 仕事/学校が対面に戻った	15. 仕事/学校がオンラインになった
4. 仕事/学校に通い始めた	16. 仕事/学校をやめた
5. 地域活動や趣味を始めた	17. 地域活動や趣味をやめた
6. 友だち・仲間が増えた	18. 友だち・仲間が減った
7. 交通手段が確保できた	19. 交通手段が確保できない
8. 付き添い等が確保できた	20. 付き添い等が確保できない
9. 時間的なゆとりが増えた	21. 時間的なゆとりが減った
10. 経済的なゆとりが増えた	22. 経済的なゆとりが減った
11. 健康状態がよくなった	23. 健康状況がよくない
12. その他 ()	24. その他 ()

(4) 暮らしの不安

あなたは、日常の暮らしの中で不安を感じることはありますか。
当てはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

1. 経済的な不安
2. 雇用の場が少ないことへの不安
3. 人口減少に対する不安
4. 国際情勢に対する不安
5. 地震、豪雨等の災害に対する不安
6. 健康上の不安
7. 防犯・治安に対する不安
8. 子育てに対する不安
9. 介護に対する不安
10. 教育・学習環境に対する不安
11. その他 ()

4. 健康状態について

(1) 健康状態について

あなたは、健康だと思いますか。
当てはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

1. 健康だと思う
2. どちらかという健康だと思う
3. どちらかという健康だと思わない
4. 健康だと思わない

(2) 「健康だと思う」理由 / 「健康ではないと思う」理由

あなたが「健康だと思う」 / 「健康ではないと思う」理由は何ですか。
次の中から当てはまるものを最大3つまで選んで○をつけてください。

「健康だと思う」理由	「健康ではないと思う」理由
1. 心身の状況がよい	10. 心身の状況がよくない
2. 美味しく飲食できる	11. 飲食ができない / 暴飲暴食
3. 十分な睡眠がとれる	12. 睡眠がとれない
4. 規則正しい生活	13. 不規則な生活
5. 運動の継続	14. 運動不足
6. 不安や悩みがない	15. 不安や悩みがある
7. 居住環境	16. 居住環境
8. 自然環境	17. 自然環境
9. その他 ()	18. その他 ()

(3) ストレスについて

あなたは、普段ストレスを感じることはありますか。
次の中から当てはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

1. 全くストレスを感じない
2. あまりストレスを感じない
3. たまにストレスを感じている
4. よくストレスを感じている

(4) ストレスの理由

あなたがストレスを感じる理由は何ですか。

次の中から当てはまるものを最大3つ選んで○をつけてください。

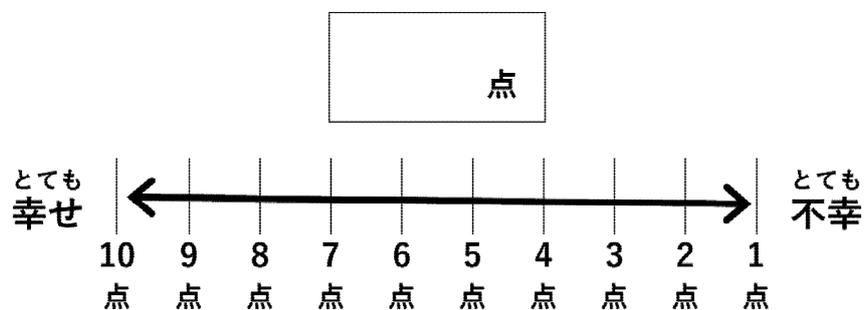
- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 家計の状況 | 2. 就業状況 |
| 3. 健康状況 | 4. 自由な時間がない |
| 5. 家族関係 | 6. 友人関係 |
| 7. 職場の人間関係 | 8. 地域との関係 |
| 9. 頼れる人がいない | 10. 不安や悩みがある |
| 11. 子育て環境 | 12. 教育・学習環境 |
| 13. 治安・防災体制 | 14. 自然環境 |
| 15. 居住環境 | 16. 地域の交通 |
| 17. 買い物環境 | 18. 医療環境 |
| 19. 行政の対応 | 20. 国際情勢 |
| 21. その他 () | |

5. 幸福度について

(1) 幸福度について

あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を1点として、1～10の数字を1つご記入ください。



(2) 幸福度の判断について

あなたが幸福かどうかを判断する際に重視することは何ですか。
次の中から当てはまるものを最大3つまで選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1. 家計の状況 | 2. 就業状況 |
| 3. 健康状況 | 4. 自由な時間 |
| 5. 充実した余暇 | 6. 仕事のやりがい |
| 7. 精神的なゆとり | 8. 趣味・社会貢献などの生きがい |
| 9. 家族関係 | 10. 友人関係 |
| 11. 職場の人間関係 | 12. 地域との関係 |
| 13. 子育て環境 | 14. 教育・学習環境 |
| 15. 治安・防災体制 | 16. 地域の歴史・文化 |
| 17. 自然環境 | 18. 居住環境 |
| 19. その他 () | |

アンケートにご協力いただき、
ありがとうございました。

10月23日(月)を目安に

同封の返信用封筒「政策経営グループ 行」に入れて郵便ポストへ投函、
または、連絡先の担当へご持参も可能です。